

元総社蒼海遺跡群(124)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2017.12

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(124)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2017.12

前橋市教育委員会

口絵写真



元總社蒼海遺跡群No.124遠景 調査区南東側より榛名山方面を望む



元總社蒼海遺跡群No.124遠景 調査区南西より赤城山方面を望む

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の隨所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群(124)は、上野国府推定区域や上野国分僧寺・国分尼寺などの施設を擁する古代上野国の中核地域であり、多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出、確認はかないませんでしたが、中世蒼海城本丸西側の土壘、堀跡を検出しました。今回の調査成果をはじめ、これまでに蓄積した調査成果は、国府や国府のまちの姿を再現するための資料であると考えております。残念ながら現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことに厚くお礼申しあげます。

平成29年12月

前橋市教育委員会

教育長 塩崎政江

例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社菖海土地区画整理事業に伴う元総社菖海遺跡群（124）埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名称	元総社菖海遺跡群（124）
調査場所	群馬県前橋市元総社町 1906-1、1909-1、1909-2、1906-10、1930
遺跡コード	28 A 229
発掘・整理担当者	山本千春（有限会社毛野考古学研究所）
発掘調査期間	平成 29 年 1 月 30 日～平成 29 年 3 月 30 日
整理・報告書作成期間	平成 29 年 6 月 20 日～平成 29 年 12 月 22 日

3. 本書の原稿執筆は I を小峰 駿（前橋市教育委員会）、他を山本が担当した。

4. 出土した骨については、大妻女子大学博物館 横崎修一郎氏より玉稿を賜った。記して感謝の意を表します。

5. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】 天田眞由美・碓井俊夫・大竹努・岡庭秋男・小間泰洋・桜井豊・中島勝由・永井述史
橋元裕児・馬場陽典

【整理作業】 石原理久子・磯 洋子・合田幸子・戸玲子・深谷道子・半澤利江・眞下弘美・山下奈邦子

6. 発掘調査で出土した遺物及び、図面・写真等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

7. 発掘調査から報告書作成に至るまで、下記の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。

記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

中村岳彦 山下工業株式会社 元総社町自治会

凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60・1/80・1/100 縮尺で表現することを基本として掲載した。各挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位記号は座標北を示し、座標値は日本測地系に基づいている。

2. 遺物実測図の縮尺は、1/3・1/4 縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。

3. 遺構実測図で使用しているトーンについては、随時図中に注釈を付してある。

4. 遺物実測図に使用しているトーンは次の意味を表す。

【断面】 須恵器 ■ 灰釉陶器 □ 【器面】 灰釉 □ 黒色処理 ■

5. 遺構及び遺構内施設の略称は、次のとおりである。

W：溝・堀 D：土坑 P：ピット

6. 遺構覆土および土器類の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に掲載した。

7. 本文中や挿表中において、〔 〕は残存値を、（ ）は推定値をそれぞれ示す。

8. 本文中や挿図中では、「城館調査の手引き」（山川出版社）にならい、「郭の縁辺部に土盛りをして防護壁とした施設」を「土居」ではなく、「土塁」と表記した。

9. 本書作成のために使用した参考・引用文献については、諸般の都合で一部削愛した。ご寛恕願いたい。

目 次

口絵写真
はじめに
例 言
凡 例
目 次

I	調査に至る経緯	1	I	土壠	10
II	地理的・歴史的環境	2	II	溝	10
	1. 地理的環境	2		3. 土坑	11
	2. 歴史的環境	3		4. ピット	11
III	調査の方法と経過	7	VI	元総社舊海道跡群（124）出土の人骨	10
	1. 調査の方法	7		および獸骨	31
	2. 調査の経過	7	VII	まとめ	32
IV	標準堆積土層	10			
V	遺構と遺物	10			

抄 緯
写真図版
奥 付

挿 図 目 次

Fig. 1	調査区域図	1	Fig.12	遺構実測図（6）	19
Fig. 2	遺跡の位置	2	Fig.13	遺構実測図（7）	20
Fig. 3	周辺の遺跡	3	Fig.14	遺構実測図（8）	21
Fig. 4	元総社舊海道跡群とグリッド設定図	5	Fig.15	遺構実測図（9）	22
Fig. 5	元総社舊海道跡群（124）遺構全体図①	8	Fig.16	遺構実測図（1）	23
Fig. 6	元総社舊海道跡群（124）遺構全体図②	9	Fig.17	遺構実測図（2）	24
Fig. 7	遺構実測図（1）	12	Fig.18	遺構実測図（3）	25
Fig. 8	遺構実測図（2）	14	Fig.19	遺構実測図（4）	26
Fig. 9	遺構実測図（3）	15	Fig.20	遺構実測図（5）	27
Fig.10	遺構実測図（4）	16	Fig.21	遺構実測図（6）	28
Fig.11	遺構実測図（5）	18	Fig.22	本調査地と周辺舊海城跡位置図	33

挿 表 目 次

Tab. 1	周辺遺跡一覧表	6	Tab. 3	出土遺物觀察表（2）	29
Tab. 2	出土遺物觀察表（1）	28	Tab. 4	出土遺物觀察表（3）	30

写 真 図 版 目 次

P L . 1

道路全貌（上が東）
道路全貌（上が東）

P L . 2

土塁 1 号トレンチ上層断面（南東から）
土塁 1 号トレンチ上層断面（南西から）
土塁 2 号トレンチ上層断面（南西から）
土塁 3 号トレンチ上層断面（南西から）
土塁 2 面全貌（上が東）

P L . 3

W-3号溝 1号トレンチ上層断面（南西から）
W-3号溝 1号トレンチ上層断面（南東から）
W-3号溝 B・C期 1号トレンチ断面（南から）
W-3号溝 2号トレンチ上層断面（南東から）
W-3号溝 3号トレンチ上層断面（北東から）
W-3号溝 3号トレンチ上層断面西半側（北から）
W-3号溝 3号トレンチ人骨・かわらけ出土状態（南西から）
W-3号溝 3号トレンチ遺物出土状態（南西から）

P L . 4

W-3号溝南側上端部走行状態（北から）
W-3号溝 4号トレンチ（西から）
W-3号溝 4号トレンチ D上層断面（南から）
W-3号溝 4号トレンチ E上層断面（南東から）
W-1号溝全貌（南から）

W-1号溝調査区東壁トレンチ上層断面（北西から）

W-2号溝全貌（南から）
W-2号溝全貌（北西から）

P L . 5

W-4号溝全貌（東から）
W-4号溝遺物出土状態（北から）
D-1号土坑上層断面（東から）
D-1号土坑全貌（東から）
P-1号全貌（南から）
P-2号全貌（南から）
P-3号全貌（南から）
調査風景

P L . 6

出土遺物（1）

P L . 7

出土遺物（2）

P L . 8

出土遺物（3）

P L . 9

出土遺物（4）

I 調査に至る経緯

平成28年10月17日付けで前橋市長 山本 龍（区画整理課）より埋蔵文化財発掘調査業務に係る依頼が、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では既に発掘調査を実施中であり、市教委直営による発掘調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで依頼者である前橋市と合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。平成28年12月26日付けで前橋市と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で業務委託契約を締結した。現地調査は、翌年1月下旬から開始した。平成28年度は、現地での発掘作業と出土遺物の洗浄・注記作業までとし、発掘調査報告書作成に係る整理作業については、平成29年度に別途前橋市と有限会社毛野考古学研究所との間で業務委託契約を締結し実施した。

なお、遺跡名称「元總社蒼海遺跡群(124)」（遺跡コード：28A229）の「元總社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、(124)は過年度に実施した調査と区別するため付したものである。

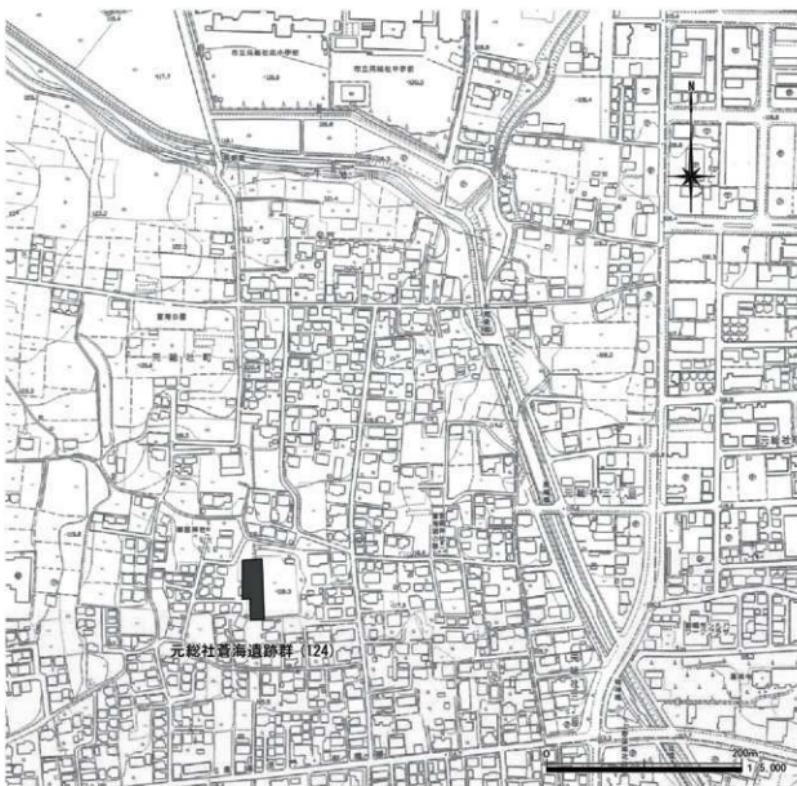


Fig. 1 調査区域図（前橋市役所発行『前橋市現況図 51-2』）

II 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

元総社舊海遺跡群が所在する前橋市は群馬県の中央からやや東寄りに位置し、北東に赤城山、北に子持山・小野子山、北西に榛名山、西に妙義山・浅間山を望むことができる。

調査地点は相馬ヶ原扇状地の末端に位置する。この相馬ヶ原扇状地は榛名山の陣場岩屑なだれ（約1.3万年前）による砂礫層が厚く堆積して形成される。同層下には浅間山の応桑岩屑なだれ（約2.3～2.4万年前）に起因する前橋泥流が赤城山・浅間山の両火山間から利根川を経て南東方向へ流出し、緩傾斜地の扇状地性台地を形成している。陣場岩屑なだれによる堆積物の上には前橋泥炭層（約1.1万年前）や総社砂層が厚く堆積する。

台地の東部には広瀬川低地帯との間に崖線が走り、中央には利根川が南流するが、現流路は中世以降のもので、旧流路は現在の広瀬川流域とされる。本遺跡地周辺には榛名山麓を源とする染谷川・牛池川・八幡川などの中小河川が相馬ヶ原扇状地上に南東流し、台地面を刻んで細い微高地を形成する。なお、これらの河川は相馬ヶ原扇状地を抜けて台地へ出ると南東から南方向へと流路を変えているが、こうした地形の制約に大きく影響を受ける河川の流路変更是洪水を起こす温床と考えられ、同扇状地上に堆積する泥炭層、洪水層、総社砂層は度重なる洪水によってもたらされた堆積物によって形成された可能性が指摘されている。

本遺跡は、前橋市域の西部、前橋市総社町総社、元総社地内に所在する。利根川を隔て東へ2.4kmに県庁（厩橋城跡）、南東0.3kmに総社神社があり、西0.7kmには関越自動車道が南北に走る。周辺は近年の区画整理事業の開発に伴い、道路建設や住宅地化、商業施設の林立が著しいが、周囲には畠地を伴う閑静な住宅街が広がる。

主要引用・参考文献

早田 駿 1990 「第1章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1』

日沖剛史 2015 「群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用」『地域考古学』1号 地域考古学研究会

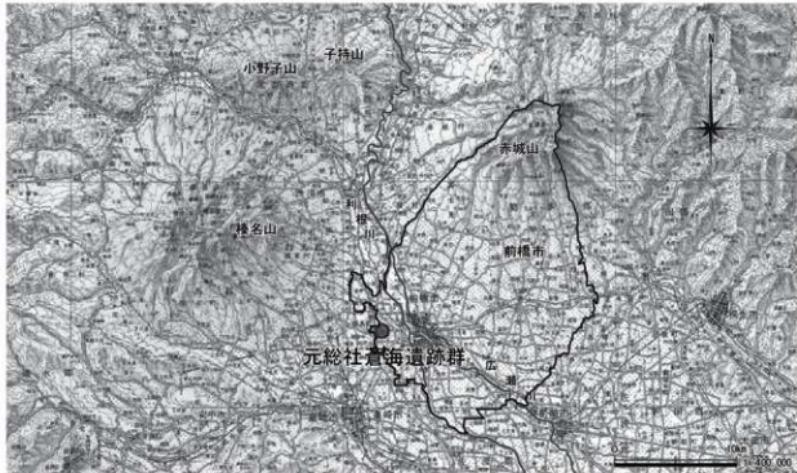


Fig. 2 遺跡の位置（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』20万分の1図を改変）

2. 歴史的環境

本遺跡地は上野国分寺跡の南東 1.2kmに位置し、本遺跡地周辺では県内でも著名な遺構が存在する。榛名山麓より流下する染谷川・牛池川・八幡川等の小河川は遺跡の古地に影響を与え、その流域である国分・元総社・總社・大渡地域は遺跡密集地となっている。

縄文時代では、八幡川、牛池川、染谷川流域の微高地上に立地する元総社蒼海遺跡群（3）・（4）・（13）・（24）・（48）、元総社小見遺跡、小見VII遺跡などで、前期後葉・諸磯式期と中期後葉・加曾利E式期2時期の集落跡が確認される。また、八幡川、滝川などの小河川によって開析された低台地の南端にある産業道路東遺跡から中期後半・加曾利E式期住居跡が検出されている（上野国分僧寺・尼寺中間地域では加曾利E式期の拠点的集落が確認されている）。近接する産業道路西遺跡では、後期前半の住居跡が確認されている。元総社蒼海遺跡群（101）には後期・加曾利B式期主体の土坑群が検出されたが、集落が確認されていないため、単独墓域の可能性がある。晩期は、元総社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）で前半の住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡は調査事例が少なく、後期・樽式期の住居跡が上野国分僧寺・尼寺中間地域等で散見される程度である。生産遺構としては、日高遺跡など平野部の後背湿地において浅間C軽石（A s - C : 3世紀後半～4世紀初頭）下の水田跡が検出されている。

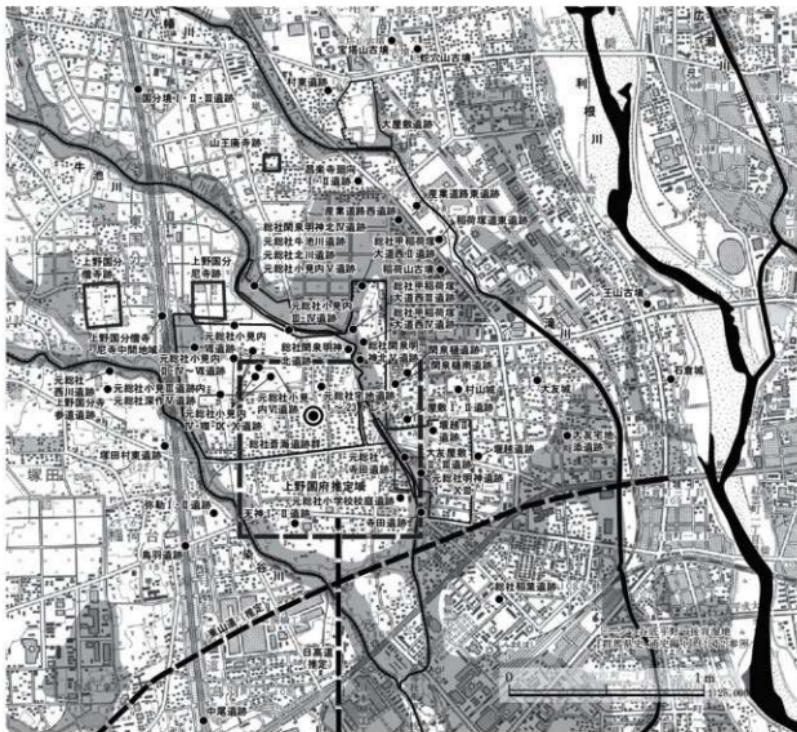


Fig. 3 周辺の遺跡（国土地理院発行『前橋』25,000 分の 1 図を改変）

古墳時代は、前期の集落が、元総社蒼海群（40）や小見V遺跡などの染谷川左岸と元総社蒼海遺跡群（38）などの牛池川右岸に形成される。中期になると三ツ寺地域において首長層の居館跡（三ツ寺I遺跡など）が牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開するが、総社地域では発見例に乏しい。後期になると遺跡数が増大し、国府が機能し始めるまで連綿と継続する様相が窺える。集落に伴う水田は八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中し、周溝墓群は元総社蒼海遺跡群（56・61・62・100）などの牛池川左岸に展開する。古墳は本地域においても数多く築造されており、利根川右岸に遠見山古墳（5世紀後半）が築造されたのをはじめ、6世紀には王山古墳・総社二子山古墳、7世紀には愛宕山古墳・宝塔山古墳や蛇穴山古墳などの首長墓が造営され、これらは総社古墳群と呼称される。また、総社古墳群の南西1kmには7世紀後半に山王庵寺（放光寺）が建立され、塑像群や綠釉陶器、金銅製飾金具などが出土している。また、同寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石等の石造群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術が用いられているとされる。

この後、元総社地区において上野国府・国分僧寺・国分尼寺が置かれ、古代上野国の文化的中心地として再編成される。上野国府は本遺跡地周辺が推定城となっており、これに関連する遺跡として元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）、関泉桶遺跡で東西方向、元総社明神遺跡遺跡で南北方向の大溝が確認されたことにより、国府域における北及び東外郭線が想定された。また、元総社蒼海遺跡群（9）から大型建物跡、元総社小学校校庭遺跡から大型掘立柱建物、元総社蒼海遺跡群（95）では2棟重なる掘立柱建物跡、元総社蒼海遺跡群（99）および国府28トレチでは掘込地業建物、元総社寺田遺跡では「國厨」「國」「曹司」「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土している。更に周辺遺跡からは官人が使用していたと考えられる円面鏡、巡方（腰帶具）、綠釉陶器も出土し、国府の傍証する資料の増加が報告されている。

国分僧寺は昭和55年により本格的な調査が行われ、主要伽藍の礎石・築垣・壇などが捉えられている。国分尼寺は、昭和44・45年にトレチ調査が行われ、伽藍配置の憶測が可能になった。この結果を基に、平成12年の前橋市埋蔵文化財発掘調査団による寺域確認調査が行われ、南東・南西隅の築垣とそれに並走する溝、道路状遺構が確認された。

奈良時代から平安時代前半（8～9世紀）の集落跡は、牛池川と染谷川に挟まれた台地および牛池川左岸上に展開する傾向にある。対して国府推定城の中心部では希薄であることから、明確な区分けがなされていたことが看取される。10世紀に入ると元総社地域では集落数が増大し、その分布に偏在性はみられない。數こそ減少するものの、その傾向は11世紀にも継続する傾向がみられる。こうした集落域の変化は、国府関連施設が中枢としての機能が失われていたことに起因し、窓の構築材に同施設の瓦が転用されていることがそれを傍証する事例として指摘されている。

中世に入ると本地域は上野守護代に任命された総社長尾氏が総社城（蒼海城）を築城して本拠地とした。同城は染谷川とその支流牛池川に挟まれた、径1.2kmを縛張りとする県内最古級に位置付けられる城郭で、上野国府の地割を利用したものとされる。近年の区画整理事業に伴う発掘調査の増加により、主郭周辺の堀や建物跡、井戸などの関連遺構が調査されている。元総社蒼海遺跡群（27）では堀及び二の丸に関連する無数の柱穴群が確認され、元総社蒼海遺跡群（24・25・27）では12～15世紀代の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・荷腰香炉、白磁などの貿易陶磁が多数出土し、中心は15世紀後半である。また、本地域周辺には永禄8年（1565）に武田信玄が腰橋城の上杉謙信と交戦するために築いた石倉城をはじめ、大友城や北条氏直の配下・村上佐渡守の居城であった村上城などの城館が築城されている。

江戸時代になり、慶長6年（1601）に秋元長朝が入封するも、利根川西岸縁の植野に総社城を築いて蒼海城は廢城となった。なお、惣社城が完成するまでの慶長9年（1604）からの10年間は蒼海城の東に位置する八日市城に在城している。長朝は領内の経済基盤を安定させるため、慶長9年（1604）に天狗岩用水を開削し、現在でもなお農業用水として利用されている。

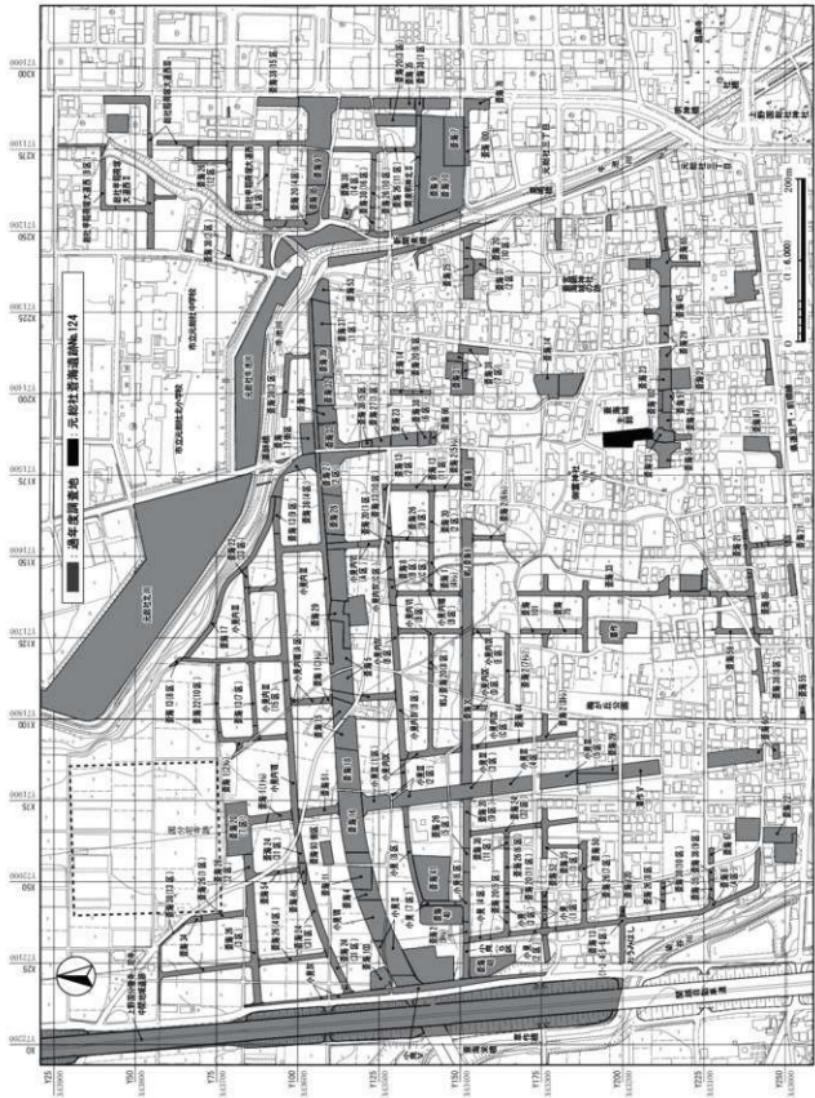


Fig. 4 元経社蒼海遺跡群とグリッド設定図（藤坂・南田 2016『元経社蒼海遺跡群（93 街区）』掲載図を一部改変）

Tab. 1 周辺道路一覧表

道線名	調査年度	時代					道線名	調査年度	時代					
		調文	弥生	古墳	奈良平安	中世			調文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
元紹社舊南邊跡群(1)	2005		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(84)	2014		●				
元紹社舊南邊跡群(2)	2005			●	●	●	元紹社舊南邊跡群(85)	2014		●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(3)	2005	●		●	●	●	元紹社舊南邊跡群(88)	2014						
元紹社小兒磯跡群	2005			●	●	●	元紹社舊南邊跡群(89)	2014						
元紹社舊南邊跡群(4)	2005	●	●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(90)	2014		●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(5)	2005			●	●	●	元紹社舊南邊跡群(91)	2014		●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(6)	2005		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(95)	2014		●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(7)	2005		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(96)	2014						
元紹社舊南邊跡群(8)	2006		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(97)	2014		●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(9)(10)	2006	●		●	●	●	元紹社舊南邊跡群(98)	2014		●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(11)	2006			●	●	●	元紹社舊南邊跡群(99)	2014		●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(12)	2006		●	●	●	●	国野町範囲内確認調査33・34	2015	●					
元紹社舊南邊跡群(13)	2008	●		●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(14)	2008		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(100)	2014	●	●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(15)	2008		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(101)	2014	●					
元紹社舊南邊跡群(16)	2008		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(117)	2016	●	●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(17)	2008		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(118)	2016						
元紹社舊南邊跡群(18)	2008		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(117街区)	2015	●	●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(19)	2008		●	●	●	●	元紹社舊南邊跡群(93街区)							
元紹社舊南邊跡群(20)	2008		●	●	●	●	元紹社小兒磯跡	2009	●					
元紹社舊南邊跡群(21)	2009			●	●	●	元紹社小兒遺跡	2002	●					
元紹社舊南邊跡群(22)	2009			●	●	●	元紹社小兒遺跡	2002	●					
元紹社舊南邊跡群(23)	2009			●	●	●	元紹社小兒IV遺跡	2003	●					
元紹社舊南邊跡群(24)	2009	●		●	●	●	元紹社小兒V遺跡	2003	●					
元紹社舊南邊跡群(25)	2009			●	●	●	元紹社小兒VI遺跡	2003	●					
元紹社舊南邊跡群(26)	2009			●	●	●	元紹社小兒VI遺跡	2004	●					
元紹社舊南邊跡群(27)	2009			●	●	●	元紹社小兒VI遺跡	2001	●					
元紹社舊南邊跡群(28)	2009			●	●	●	元紹社小兒VII遺跡	2002						
元紹社舊南邊跡群(29)	2009			●	●	●	元紹社小兒VII遺跡	2003						
元紹社舊南邊跡群(30)	2009			●	●	●	元紹社小兒VIII遺跡	2003	●					
元紹社舊南邊跡群(31)	2009			●	●	●	元紹社小兒IX遺跡	2003						
元紹社舊南邊跡群(32)	2010			●	●	●	元紹社小兒IX遺跡	2004						
元紹社舊南邊跡群(33)	2010		●	●	●	●	元紹社小兒IX内IX遺跡	2004						
元紹社舊南邊跡群(34)	2010		●	●	●	●	元紹社小兒X遺跡	2004		●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(35)	2010	●		●	●	●	元紹社深川遺跡	1984						
元紹社舊南邊跡群(36)	2010			●	●	●	元紹社深川遺跡I	2002	●	●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(37)	2011			●	●	●	元紹社深川遺跡I～8トレンチ	2009		●	●	●		
元紹社舊南邊跡群(38)	2012			●	●	●	元紹社宅地遺跡9～12トレンチ	2009					●	
元紹社舊南邊跡群(39)	2012			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(40)	2013	●		●	●	●	五紹社宅地遺跡19トレンチ	2009						
元紹社舊南邊跡群(41)	2013	●		●	●	●	五紹社宅地遺跡20トレンチ	2009						
元紹社舊南邊跡群(42)	2013			●	●	●	元紹社宅地トレンチ22・23	2012		●	●			
元紹社舊南邊跡群(43)	2013			●	●	●	トレンチ・上野国府等範囲内確認調査13トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(44)	2013			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査1トレンチ	2011						
元紹社舊南邊跡群(45)	2013			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査2トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(46)	2013			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査3トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(47)	2013				●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査4トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(48)	2013	●		●	●	トレンチ								
元紹社舊南邊跡群(49)	2013			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査5トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(50)	2013	●		●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査6トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(51)	2013		●	●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査7トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(52)	2013		●	●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査8トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(53)	2013			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(54)	2013			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査9トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(55)	2013			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(56)(61)	2013		●	●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査10トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(57)	2014			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(58)	2014			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査11トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(59)	2014			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(60)	2014			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査12トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(62)	2014			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(63)	2014			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査13トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(64)	2014			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(65)	2014			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査14トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(66)	2013			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(67)	2013			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査15トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(68)	2013			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(72)	2013			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査16トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(73)	2013			●	●	●	トレンチ							
元紹社舊南邊跡群(81)	2014			●	●	●	上野国分寺外縁範囲内確認調査17トレンチ	2012						
元紹社舊南邊跡群(82)	2014			●	●	●	トレンチ							

III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

発掘調査の依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社菅海土地地区画整理事業に伴い新設される道路用地等である。調査対象面積は 1,355m²であるが、安全管理等の理由により、調査面積は 1,075m²を対象とした。

調査区に被せる方眼は 2000 年に行われた上野国分尼寺寺域確認調査から用いられている 4 m ごとの方眼（日本測地系）を基準とし、近隣調査との整合性を取りやすくした。グリッドは北西杭の名称を使用し、西から東へ X : 184、X : 185、X : 186…、北から南へ Y : 194、Y : 195、Y : 196…、と設定した。本遺跡の X : 186、Y : 200 の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系 X = + 43200.000 Y = - 71456.000

世界測地系 X = + 43554.912 Y = - 71743.764

今回の調査対象地では現況で土塁が遺存していることや、これに伴う堀跡が周辺の過年度調査地において確認されていることから、調査対象は主に菅海城の堀および土塁となることが想定された。調査方針について前橋市教育委員会と協議を重ねた後、まずは土塁から着手し、重機による表土掘削後人力による検出作業を行った。記録作業は適宜実施し、その後土塁に対し 3 本のトレーナーを設定して截ち割りを行った。堀の調査は安全管理上の理由や掘削土搬出等の制限により、トレーナー調査で対応をすることとなった。まず、堀の走行状況を確認するため重機で遺構確認面（土塁法尻）まで掘り下げた後に 4 本のトレーナーを設定して人力での検出作業を行った。

記録作業は測量および写真撮影で対応した。遺構図面は平面・断面図とも 1/20 縮尺を基本とし、測量はトータルステーションを用いた。遺構写真は 35mm 判のフィルムカメラ（白黒・カラーリバーサル）とデジタルカメラで撮影・記録をし、全体写真はドローンによる空中写真撮影を実施した。なお、現地調査では安全柵や注意喚起の看板設置など、出来得る限りの安全対策を行った。

2. 調査の経過

発掘調査は平成 29 年 1 月 30 日から平成 29 年 3 月 30 日まで、整理作業・報告書作成は平成 29 年 6 月 20 日から平成 29 年 12 月 22 日までの期間にそれぞれ実施した。以下に概要を記す。

【発掘調査】

1 月 30 日：重機による表土掘削を開始し、ダンプにて排土搬出。資器材搬入。土塁調査開始。2 月 3 日：ボックスハウス搬入。6 日：W-1 号溝の調査。7 日：W-2 号溝の調査開始。15 日：W-3 号溝（堀）1 号トレーナー調査。16 日：W-3 号溝（堀）2 号トレーナー調査。17 日：W-3 号溝（堀）3 号トレーナー調査。25 日：W-3 号溝（堀）4 号トレーナー調査。28 日：ドローンによる空中写真撮影。3 月 2 日：土塁截ち割り（トレーナー）作業開始。6 日：現地調査と並行し、出土遺物洗浄・注記作業開始。8 日：前橋市教委による、1 面目の発掘調査終了確認。13 日：土塁天端を重機で面下げ。W-4 号溝、D-1 号土坑調査。15 日：ドローンによる空中写真撮影。前橋市教委による 2 面目の発掘調査終了確認。16 日：プレハブ撤収。調査区埋め戻し（～25 日）。28 日：仮設トイレ撤収。30 日：成果品を納品し、前橋市教委による確認。全作業工程完了。

【整理作業・報告書作成】

6 月期：遺構図面・写真の基礎整理。7 月期：遺物整理。8 月期：遺構図面の修正、第 2 原図作成。遺物写真撮影・実測・トレース。9 月期：各挿図の作成。10 月期：各挿図・図版の作成。原稿執筆。11 月期：原稿執筆。報告書の編集作業。12 月期：入稿・校正。印刷・製本。報告書刊行・納品。

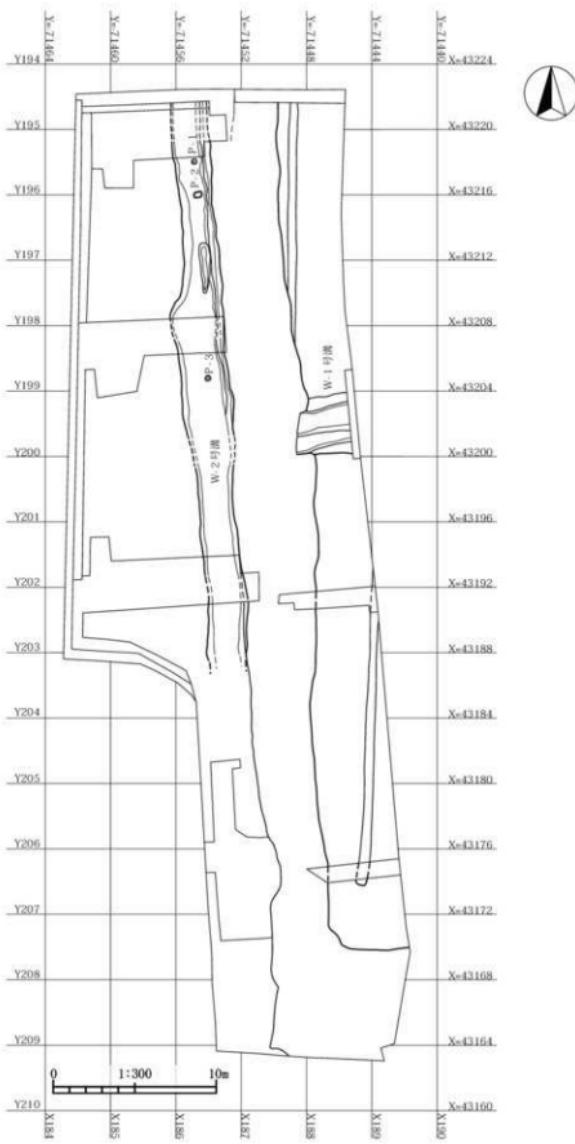


Fig. 5 元總社舊海遺跡群（124）遺構全体図 ①

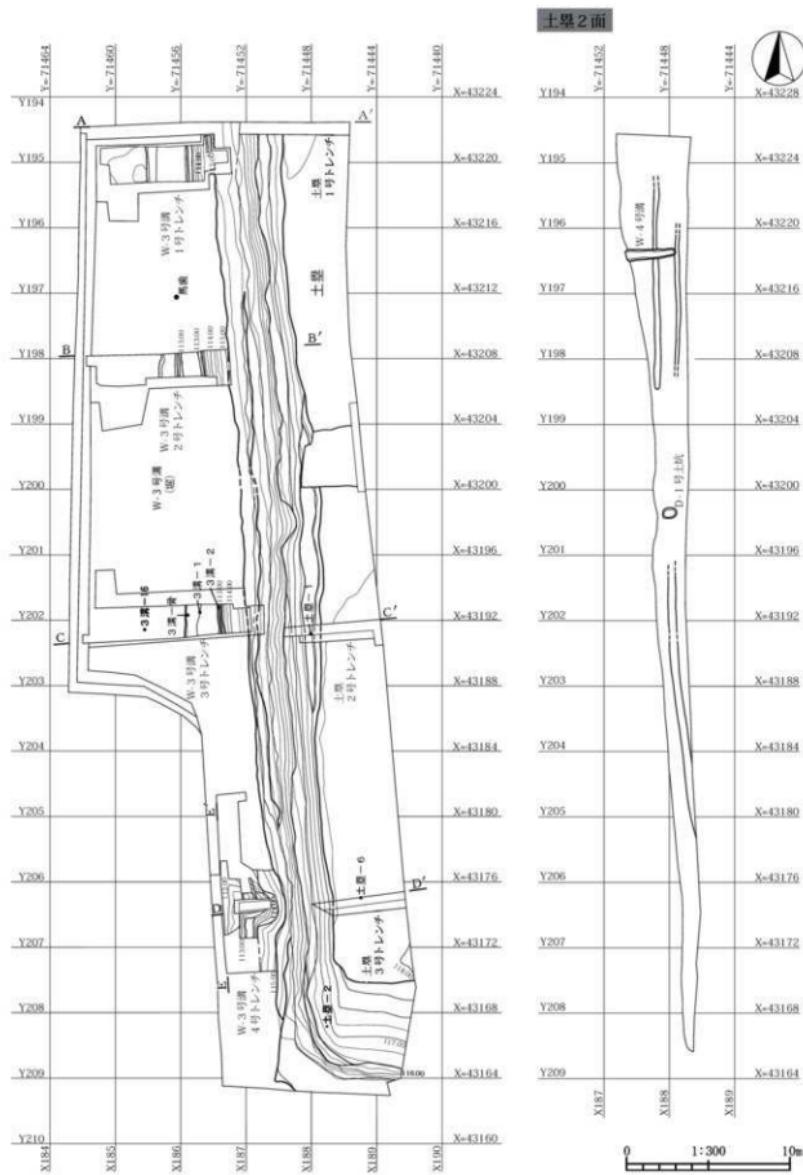


Fig. 6 元總社蒼海遺跡群 (124) 遺構全体図 ②

IV 標準堆積土層

本調査区は染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地している。今回は調査区のほぼ全域が遺構範囲内にあたることから、基本層序を明確に捉えることはできなかったため、近隣の調査成果を参照した。調査対象が主に蒼海城の土塁及び堀であったことから、調査方法はトレンチ対応となっている。現地では遺構が総社砂層（11,000～5,000年前）を基盤に構築されている点や堀底の一部でA s - Y P（浅間・板鼻黄色軽石：13,000y.B.P年前降下）を確認した。これを踏まえると、本調査区は客土・表土→近世以降の耕作土・造成土→中世以降の造成土・構築土→A s - C（浅間C軽石：3世紀後葉～4世紀前半降下）混土層が堆積し、さらにその下には総社砂層が2.5m程度の深さで堆積している状況が確認された。多少の重層差はあるものの、近隣で確認されている地盤とほぼ同様と考えられる。なお、総社砂層下位にはA s - S j（浅間・総社軽石、11,000年前降下）、A s - Y P（浅間・板鼻黄色軽石：13,000y.B.P年前降下）が堆積していることが報告されている。

V 遺構と遺物

1. 土塁 (Fig. 6・7・9～13・16・17, PL. 1・2・6)

土塁は南北方向に走行し、裾から外法尻まで2.58m、堀底（W-3号溝）からの比高差は4.73～4.98mを測る。構築方法は、郭の造成土あるいは堀の掘削土を使用して構築されたものと考えられる。現存する盛土高はおよそ20数cmである。土塁に対し、3ヵ所のトレンチを設定して截ち削りを行った。地山にあたる総社砂層上面まで掘り下げ、確認された土層は大きく3層に分けられる。上層は総社砂層ブロックを多量に含み、中層は部分的にA s - CやA s - Bを含む黒褐色土、下層は総社砂層や軽石を含む暗褐色土であった。明確な土塁の構築土は上層部分と考えられ、細かな単位での盛土や版築されたような痕跡は看取されなかった。また、本調査地内からは明確に内法の法肩は確認されなかった。

さらに、前橋市教育委員会との話し合いで土塁の盛土（上層）面を重機で掘り下げ、土塁構築以前の遺構（主に上野国府関連）の有無を確認することになった。重機で上層部分を掘削し、人力による遺構確認を行ったところ、中層上面からは上層面においても確認された耕作痕跡の溝状遺構と同様の掘り込み痕、W-4号溝、D-1号土坑が確認されたが、土塁南側に設定した3号トレンチの中層～下層では焼土・炭化材が多く含まれることや、平安時代の遺物が出土していることから、更に該期の遺構が確認される可能性が高い。

2. 溝

W-1号溝 (Fig. 5・15・17, PL. 1・4・7)

位置:X 187・188、Y 199 グリッド 主軸方位:N-88°-E。長さ:(3.38)m。最大幅:上端幅2.95～3.10m、下端幅0.89～1.20m。深さ:0.47m。形状等:土塁に対し垂直方向に走行する。郭側（東方）は調査区外だが、堀側の以西は不詳である。土塁法面を削り込むような痕跡は見受けられない。断面は皿状を呈し、緩やかな段を有する。重複:土塁を掘り込んで構築されている。遺物:埋没土中から土師器片が出土している。時期:近世以降。W-2号溝 (Fig. 5・7～11・17, PL. 1・4・7)

位置:X 185～187、Y 194～203 グリッド 主軸方位:N-4°-W。長さ:(34.00)m。最大幅:上端幅2.88m、下端幅2.21m。深さ:0.68m。形状等:やや蛇行するものの、土塁及び堀と並行するように南北方向へ走行する。北端は調査区外へ延びる。南側は調査の制限上検出することができなかつたが、延伸することが想定される。断面は逆台形状を呈する。重複:底面からP-1～3が確認されたが、新旧関係等は不詳である。遺物:近世陶磁器類。時期:近世以降。備考:本遺構はW-3号溝（堀）が埋め戻され整地された後に構築されている。

土塁及び堀と並行するが、蒼海城との関連は検討を要する。

W-3号溝 (Fig. 6 ~ 14・18 ~ 20, PL. 1・3・4・7・8)

位置:X 184 ~ 187, Y 194 ~ 209 グリッド 主軸方位:N - 5° - W。最大幅:A期上端幅 4.52 m, B期 (3.50) m + α, C期 (2.83) m + α, D期 (6.25) m + α。下端幅:A期 (1.34) ~ (1.83) m, B期 (0.50) ~ (1.46) m, C期 2.0 m, D期 (6.25) m + α。残存深度:A期 1.56 m (確認面から 1.94 m), B期 1.20 m (確認面から 2.26 m), C期 1.06 m (確認面から 2.18 m), D期 1.14 m (確認面から 1.94 m)。標高地(北-南): A 113.37 ~ 113.30 m, B期 113.02 ~ 112.58 m, C期 113.01 ~ 112.8 m, D期 113.23 ~ 112.9 m。形状等: 土塁と並行し、南北方向へ走行する。4号トレーナーから、C期で南方へ走行していた堀はA期ないしB期に西方へ屈曲して走行することが確認された。形状: A期は薬研堀、B期・C期は箱薬研堀、D期は箱堀の可能性が考えられる。重複: A期→B期→C期→D期。遺物: 3号トレーナーA期の下層からかわらけ(1~3)と人骨が出土した。墓坑が存在したか、備考: 本遺構は蒼海城跡と想定される。

W-4号溝 (Fig. 6・15・20, PL. 1・2・5・9)

位置: X 187・188, Y 196 グリッド 主軸方位: N - 84° - E。長さ: (3.06) m。最大幅: 上端幅 0.73 m, 下端幅 0.46 m。深さ: 0.19 m。形状等: W-1号溝と同様、土塁に対し、垂直方向に走行する。郭側(東方)は確認面に立ち上がり、堀側の土塁以西は不詳である。土塁面を削り込むような痕跡は見受けらず、土塁及び溝(堀)との関連性の有無は不詳である。断面は逆台形を呈する。重複: 南北方向に走行する耕作痕と思われる掘り込みを破壊し、構築される。遺物: 埋没土中から、火鉢(1)と空風輪2点(2・3)が出土している。投棄されたものか。時期: 中世以降。

3. 土坑

D-1号土坑 (Fig. 6・15・20, PL. 2・5・9)

位置: X 187・188, Y 200 グリッド 土塁の盛土下から検出された。規模: 長軸 86cm、短軸 64cm、深さ 26cm。形状等: 平面形態は楕円形、断面形態は皿状を呈する。重複: なし。遺物: 埋没土中から布目瓦が出土している。時期: 古代以降。

4. ピット

P-1 (Fig. 5・15, PL. 5)

位置: X 186, Y 195 グリッド 規模・形態: 長径 32cm、短径 30cm、深さ 19cm。形状等: 平面形態は楕円形、断面形態はU字状を呈する。重複: W-2号溝の底面から確認されたが、新旧関係等は不詳である。遺物: 埋没土中から出土しなかった。時期: 近世以降。備考: 埋没土はP-2・3と類似する。

P-2 (Fig. 5・15, PL. 5)

位置: X 186, Y 195・196 グリッド 規模・形態: 長径 50cm、短径 38cm、深さ 13cm。形状等: 平面形態は長方形、断面形態は箱型を呈する。重複: W-2号溝の底面から確認されたが、新旧関係等は不詳である。遺物: 埋没土中から出土しなかった。時期: 近世以降。備考: 埋没土はP-1・3と類似する。

P-3 (Fig. 5・15, PL. 5)

位置: X 186, Y 198 グリッド 規模・形態: 長径 35cm、短径 33cm、深さ 25cm。形状等: 平面形態は不整楕円形、断面形態はU字状を呈する。: W-2号溝の底面から確認されたが、新旧関係等は不詳である。遺物: 埋没土中から出土しなかった。時期: 近世以降。備考: 埋没土はP-1・2と類似する。

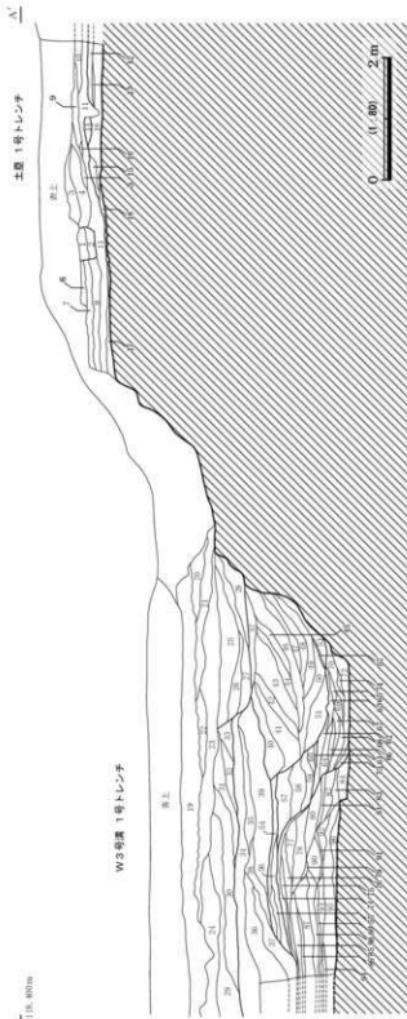


Fig. 7 遺構実測図 (1)

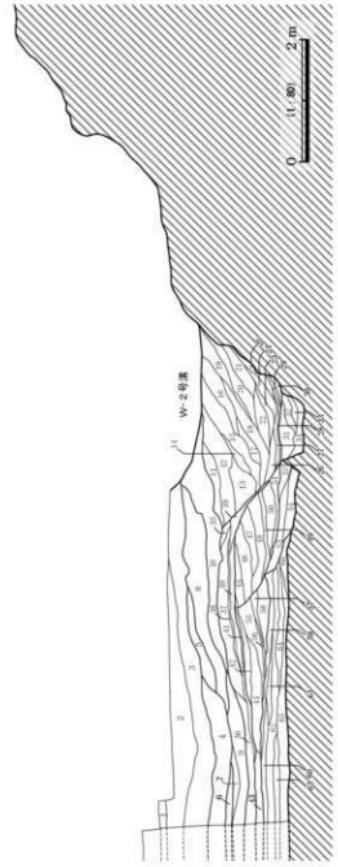


Fig. 8 遺構実測図 (2)

W-3号窓 2号トレンド 土壌図面 (A-A')	
1. 帰開色土 白色、小孔、3.0cm、鮮らか、無毛、少毛、 2. 淡灰色土 黒、少毛、細毛や少毛。	19. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂 質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、少毛、 3.0cm、鮮らか。
3. 帰開色土 白色、小孔、3.0cm、鮮らか、無毛、少毛、 4. 帰開色土 黒、少毛、細毛や少毛。	21. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂 質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、少毛、 3.0cm、鮮らか。
5. 灰色土 伸展、泥炭、少毛、細毛や少毛。	22. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂 質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、 3.0cm、鮮らか。
6. 帰開色土 黒、少毛、細毛や少毛。	23. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂 質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、 3.0cm、鮮らか。
7. 灰色土 伸展、泥炭、少毛、細毛や少毛。	24. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂 質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、 3.0cm、鮮らか。
8. 帰開色土 黒、少毛、細毛や少毛。	25. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂 質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、 3.0cm、鮮らか。
9. 灰色土 伸展、泥炭、少毛、細毛や少毛。	26. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂 質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、 3.0cm、鮮らか。
10. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂 質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、 3.0cm、鮮らか。	

柱状圖說明 (W-W')

1. 帰開色土 白色、小孔、3.0cm、鮮らか、無毛、少毛、
2. 淡灰色土 黒、少毛、細毛や少毛。

3. 帰開色土 白色、小孔、3.0cm、鮮らか、無毛、少毛、
4. 帰開色土 黒、少毛、細毛や少毛。

5. 灰色土 伸展、泥炭、少毛、細毛や少毛。

6. 帰開色土 黒、少毛、細毛や少毛。

7. 灰色土 伸展、泥炭、少毛、細毛や少毛。

8. 帰開色土 黒、少毛、細毛や少毛。

9. 灰色土 伸展、泥炭、少毛、細毛や少毛。

10. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、
3.0cm、鮮らか。

11. 帰開色土 黒、少毛、細毛や少毛。

12. 帰開色土 白色、小孔、3.0cm、鮮らか、無毛、少毛、
13. 帰開色土 黑、少毛、細毛や少毛。

14. 帰開色土 黑、少毛、細毛や少毛。

15. 帰開色土 黑、少毛、細毛や少毛。

16. 帰開色土 黑、少毛、細毛や少毛。

17. 帰開色土 黑、少毛、細毛や少毛。

18. 帰開色土 黑、少毛、細毛や少毛。

19. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

20. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

21. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

22. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、
3.0cm、鮮らか。

23. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、
3.0cm、鮮らか。

24. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、
3.0cm、鮮らか。

25. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、
3.0cm、鮮らか。

26. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、
3.0cm、鮮らか。

27. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、中量、
3.0cm、鮮らか。

28. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、砂
質リソルブドロック (1) 0.5 ~ 3.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

29. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

30. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

31. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

32. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

33. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

34. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

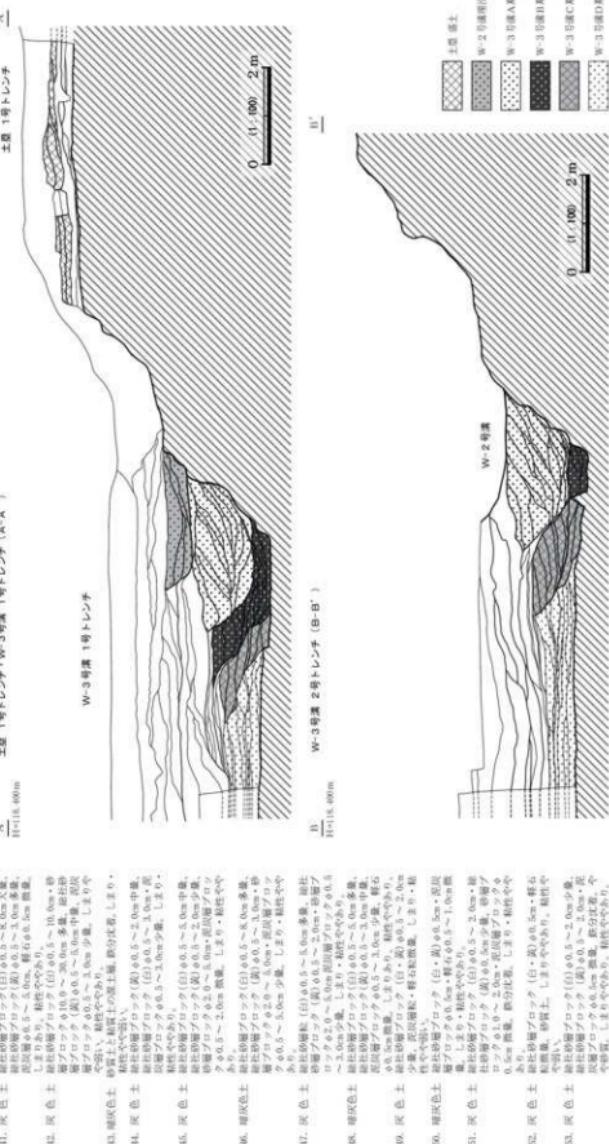
35. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

36. 帰開色土 土石比率プロック (1) 0.5 ~ 1.0m、少毛、
3.0cm、鮮らか。

37. 地色土 棱柱状節理地帯。上り・斜面や谷底。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
38. 地色土 棱柱状節理地帯。上り・斜面や谷底。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
39. 地色土 棱柱状節理地帯。上り・斜面や谷底。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～1.0m 厚。
40. 地色土 土被り。泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
41. 地色土 棱柱状節理地帯。上り・斜面や谷底。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
42. 地色土 棱柱状節理地帯。上り・斜面や谷底。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
43. 地色土 棱柱状節理地帯。上り・斜面や谷底。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
44. 地色土 棱柱状節理地帯。上り・斜面や谷底。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
45. 地色土 棱柱状節理地帯。上り・斜面や谷底。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
46. 地色土 棱柱状節理地帯。上り・斜面や谷底。
泥炭質の砂層ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。

51. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
52. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
53. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
54. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
55. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
56. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
57. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
58. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
59. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
60. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
61. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
62. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
63. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
64. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
65. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
66. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
67. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
68. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
69. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
70. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
71. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
72. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
73. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
74. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
75. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
76. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
77. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
78. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
79. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。
80. 地色土 地中砂層 ロック (D1) 0.0・5～2.0m・厚。
泥炭質の砂層 ロック (D1) 0.0・5～3.0m 厚。

Fig. 9 遺構実測図 (3)



土壌 2 号トレンチ・W-3 号溝 3 号トレンチ (C-C')

三

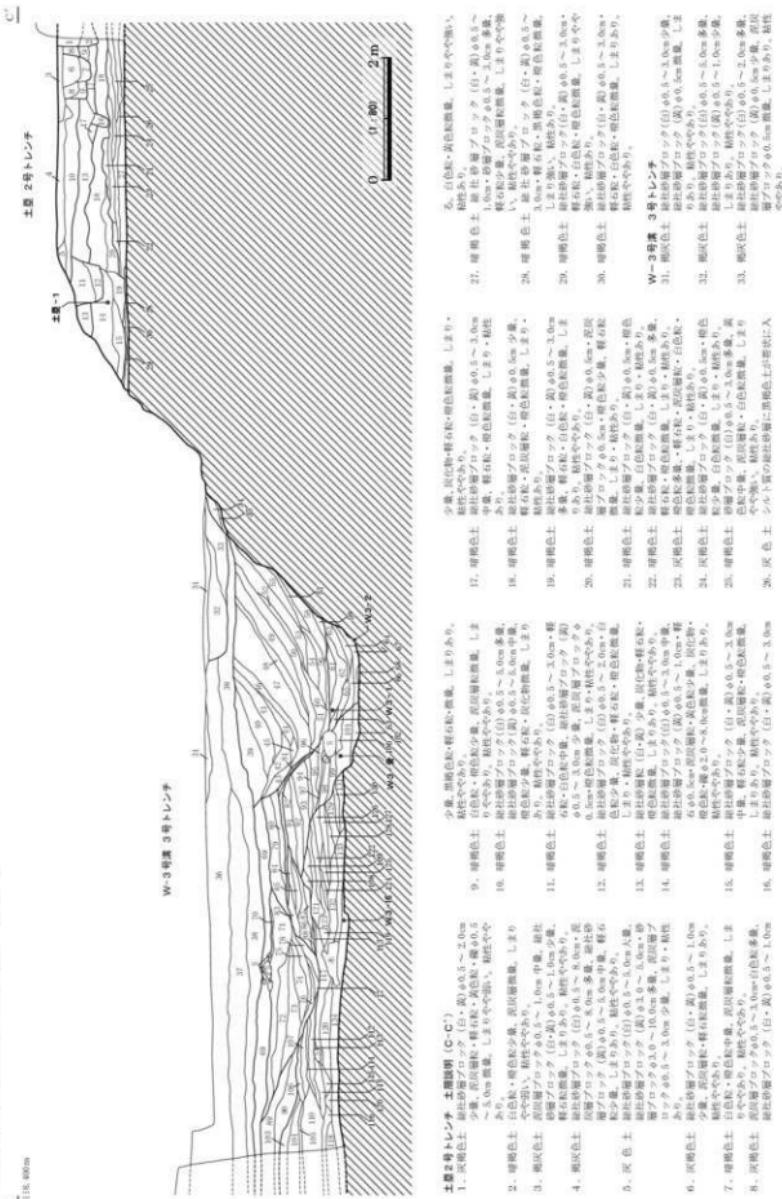
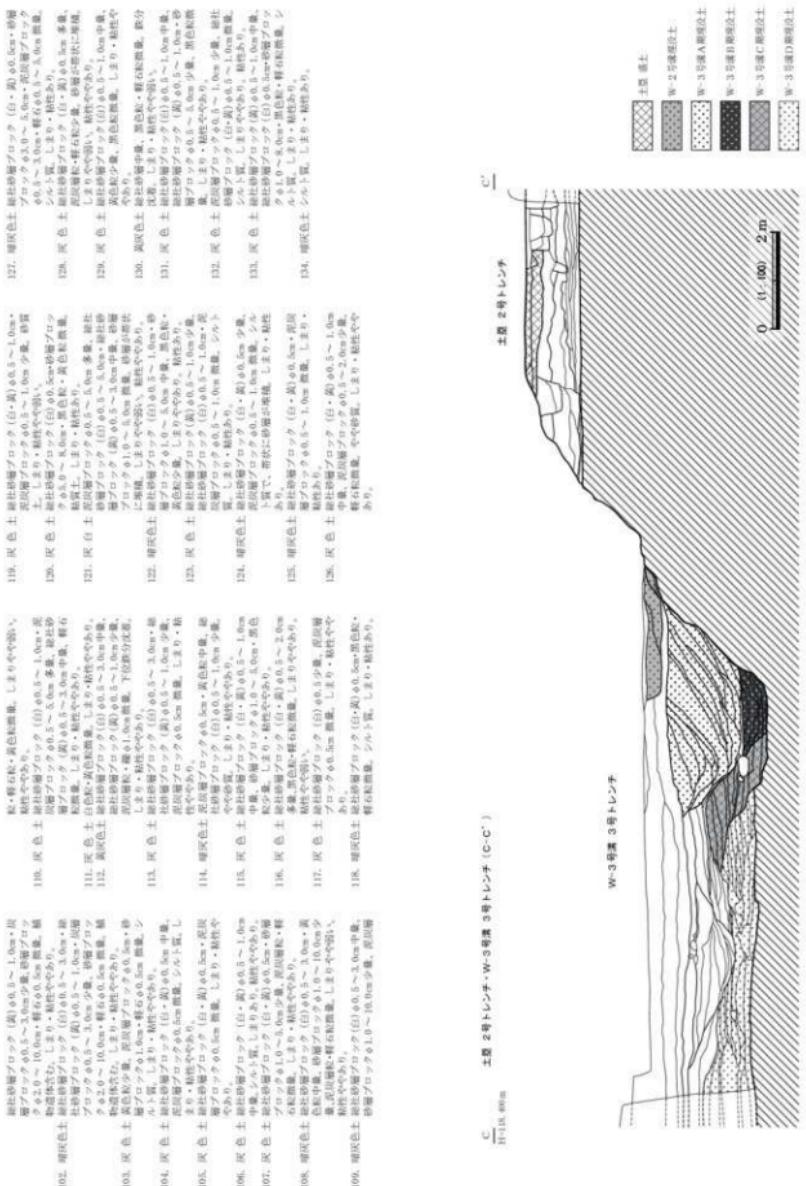


Fig. 10 遺構実測図 (4)



土壌 3号トレンチ・W-3号溝 4号トレンチ (D-D')

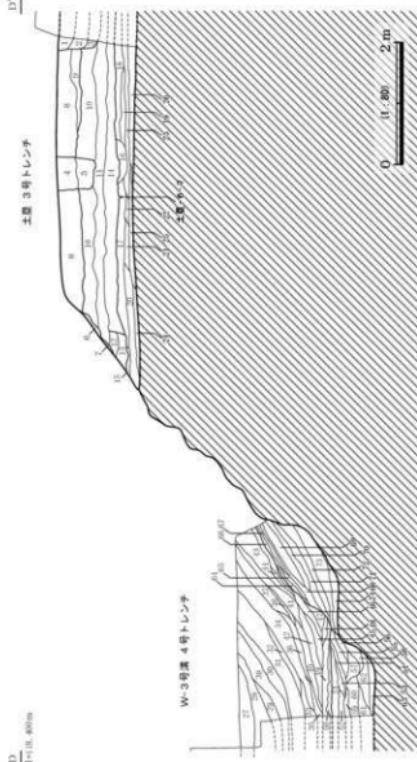


Fig. 12 遺構実測図 (6)

26. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m、白色砂質
粘性土。黄色砂質土が散在し、より多い。

27. 黄褐色土 細粒砂質ブロック (0.1) 0.5~1.0m 多量。
粘性土。

28. 黄褐色土 細粒砂質ブロック (0.1) 0.5~1.0m 中量。
粘性土。

29. 黄褐色土 細粒砂質ブロック (0.1) 0.5~1.0m 多量。
粘性土。

30. 黄褐色土 中量 細粒砂質ブロック (0.1) 0.5~1.0m、細
粒砂質土。

31. 黄褐色土 細粒砂質ブロック (0.1) 0.5~1.0m 少量。
粘性土。

32. 黄褐色土 粘性土。

33. 黄褐色土 粘性土。

34. 黄褐色土 粘性土。

35. 黄褐色土 粘性土。

36. 黄褐色土 粘性土。

37. 黄褐色土 粘性土。

38. 黄褐色土 粘性土。

39. 黄褐色土 粘性土。

40. 黄褐色土 粘性土。

41. 黄褐色土 粘性土。

42. 黄褐色土 粘性土。

43. 黄褐色土 粘性土。

44. 黄褐色土 粘性土。

45. 黄褐色土 粘性土。

46. 黄褐色土 粘性土。

47. 黄褐色土 粘性土。

48. 黄褐色土 粘性土。

49. 黄褐色土 粘性土。

50. 黄褐色土 粘性土。

51. 黄褐色土 粘性土。

52. 黄褐色土 粘性土。

53. 黄褐色土 粘性土。

54. 黄褐色土 粘性土。

55. 黄褐色土 粘性土。

56. 黄褐色土 粘性土。

57. 黄褐色土 粘性土。

58. 黄褐色土 粘性土。

59. 黄褐色土 粘性土。

60. 黄褐色土 粘性土。

61. 黄褐色土 粘性土。

62. 黄褐色土 粘性土。

63. 黄褐色土 粘性土。

64. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

65. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

66. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

67. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

68. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

69. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

70. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

71. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

72. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

73. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

74. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

75. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

76. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

77. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

78. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

79. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

80. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

81. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

82. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

83. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

84. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

85. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

86. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

87. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

88. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

89. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

90. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

91. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

92. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

93. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

94. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

95. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

96. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

97. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

98. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

99. 黄褐色土 黄色砂質ブロック 0.1~0.5m 多量。
粘性土。

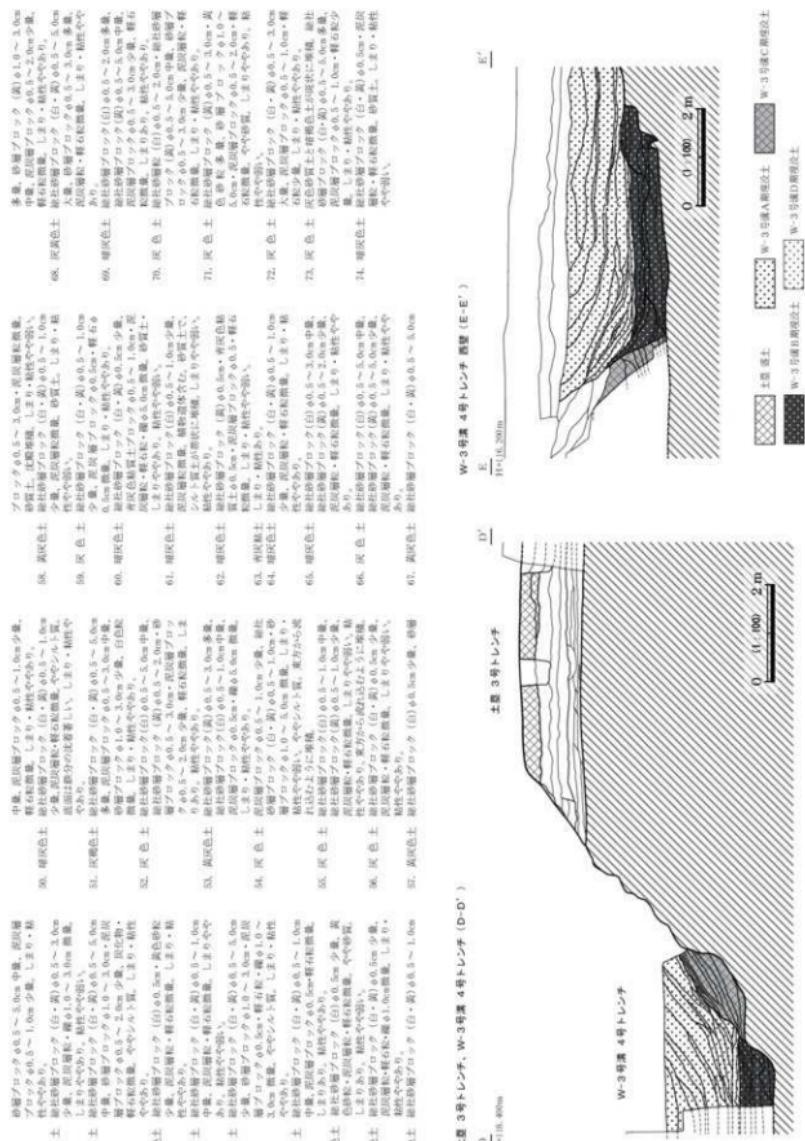
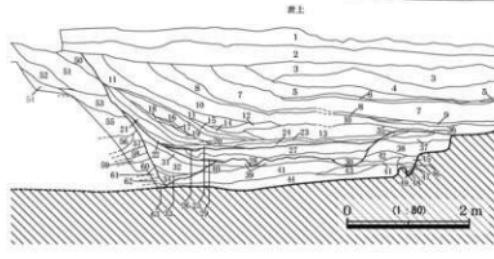


Fig. 13. 遺構案測圖 (7)

W-3号溝 4号トレーン 西壁 (E-E')

E

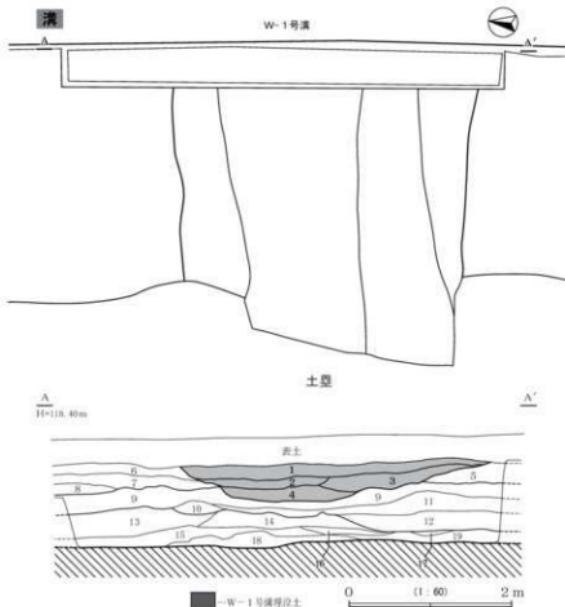
H=16.200m



W-3号溝 4号トレーン 西壁 土層説明 (A-A')

1. 増粘土色 白色粘土質砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm、輕石少
量。泥炭層。上まりり。粘性やや弱い。
 2. 増粘土色 細粒砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm、泥炭層中量。泥炭層ブロッ
ク φ0.5～5cm、白色粘土質。上まりり。粘性やや弱い。
 3. 灰褐色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～0.5cm多量、泥炭層ブロック (黄) φ0.5～1.0cm、泥炭層ブロック φ0.5～0.5cm少量。泥炭層中量。砂層ブロッ
ク φ0.5～1.0cm、輕石少。上まりり。粘性やや弱い。
 4. 灰褐色土 細粒砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm多量、泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm、泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm多量、砂層ブロック φ0.5～1.0cm、輕石少。上まりり。粘性やや弱い。
 5. 灰褐色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～0.5cm中量、泥炭層ブロック (黄) φ0.5～2.0cm、砂層ブロック φ0.5～1.0cm、泥炭層ブロック φ0.5～3.0cm多量。上まりり。粘性やや弱い。
 6. 灰褐色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～1.0cm、泥炭層ブロック φ0.5～3.0cm少量。白色粘土質。上まりり。粘性やや弱い。
 7. 灰色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～1.0cm中量、泥炭層ブロック (黄) φ0.5～3.0cm多量、砂層ブロック φ0.5～1.0cm、泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm少。上まりり。粘性やや弱い。
 8. 灰褐色土 細粒砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm中量、砂層ブロック φ0.5～5.0cm、泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm少。上まりり。粘性やや弱い。
 9. 灰色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～1.0cm、泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm少。白色粘土質。上まりり。粘性やや弱い。
 10. 灰褐色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～1.0cm中量、泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm少。輕石少。上まりり。粘性やや弱い。
 11. 灰色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～1.0cm、砂層ブロック φ0.5～1.0cm少。泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm少。上まりり。粘性やや弱い。
 12. 灰色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～1.0cm多量、砂層ブロック φ0.5～1.0cm少。泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm中量、輕石少。上まりり。粘性やや弱い。
 13. 灰褐色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～1.0cm多量、泥炭層ブロック (白) φ0.5～2.0cm少量、砂層ブロック φ0.5～1.0cm少。輕石少。上まりり。粘性やや弱い。
 14. 灰色土 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～1.0cm多量、黃色少粘土、泥炭層、
白色粘土質。上まりりやや弱い。粘性やや弱い。
 15. 増粘土色 細粒砂層ブロック (白) φ0.5～1.0cm中量、泥炭層ブロック (黄) φ0.5～2.0cm、泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm中量、細粒砂層ブロック (黄) φ0.5～2.0cm、泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm少。上まりり。粘性やや弱い。
 16. 灰色土 泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm大量、泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm少。上まりり。粘性やや弱い。
 17. 灰色土 泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm大量、泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm少。上まりり。粘性やや弱い。
 18. 灰色土 泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm大量、泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm少。上まりり。粘性やや弱い。
 19. 灰色土 泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm多量、泥炭層ブロック (黄) φ0.5～2.0cm多量、白色粘土質。上まりり。粘性やや弱い。
 20. 灰色土 泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm大量、泥炭層ブロック φ0.5～3.0cm中量、砂層ブロック φ0.5～1.0cm、白色粘土質。上まりり。粘性やや弱い。
 21. 灰色土 泥炭層ブロック (白・黄) φ0.5～2.0cm 中量、泥炭層ブロック φ0.5～0.5cm 少量、砂層ブロック φ0.5～1.0cm、白色粘土質。上まりり。粘性やや弱い。
 22. 灰色土 泥炭層ブロック (白・黄) φ0.5～2.0cm、泥炭層ブロック φ0.5～0.5cm 少量、砂層ブロック φ0.5～1.0cm、白色粘土質。上まりり。粘性やや弱い。
 23. 灰色土 泥炭層ブロック (白) φ0.5～2.0cm 中量、泥炭層ブロック (黄) φ0.5～0.5cm 少量、砂層ブロック φ0.5～1.0cm、白色粘土質。上まりり。粘性やや弱い。
 24. 灰色土 泥炭層ブロック (白) φ0.5～2.0cm 中量、泥炭層ブロック φ0.5～0.5cm 少量、泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm 少量。上まりり。粘性やや弱い。
 25. 増粘土色 泥炭層ブロック (白) φ0.5～1.0cm 中量、泥炭層ブロック (白) φ0.5～0.5cm 少量。泥炭層質、白色粘土質。上まりり。粘性やや弱い。
 26. 灰色土 細粒砂層少量。ややシルト質で、帶状に単層。上まりりやや弱い。粘性やや弱い。
27. 増粘土色 細粒砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm 中量、泥炭層ブロック φ0.5～1.0cm 少量。泥炭層質。上まりり。粘性やや弱い。
 28. 灰褐色土 細粒砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm 中量、泥炭層少量。ややシルト質、直面は鉛分の沈着者し
い。上まりり。粘性やや弱い。
 29. 灰色土 細粒砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm 中量、泥炭層少量。泥炭層質。上まりり。粘性やや弱い。
 30. 灰褐色土 砂層とシルト質層の互疊地層。細粒砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm 中量、砂層少量。泥炭層質。上まりり。粘性やや弱い。
 31. 増粘土色 細粒砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm 中量、泥炭層少量。泥炭層質。上まりり。粘性やや弱い。
 32. 増粘土色 砂層とシルト質層の互疊地層。細粒砂層ブロック (白・黄) φ0.5～1.0cm 中量、砂層少量。泥炭層質。上まりり。粘性やや弱い。
 33. 増粘土色 細粒砂層ブロック (白) φ0.5cm、黄色
細粒砂層ブロック (白) φ0.5cm、少量。泥炭層、黃色粘土質。上
まりり。粘性やや弱い。
 34. 増粘土色 細粒砂層ブロック (白) φ0.5cm、黃色
砂層ブロック φ0.5cm 少量、泥炭層。上まりり。粘性や
や弱い。

Fig. 14 遺構実測図 (8)



- W-1号渠 東壁トレーンジ 土層説明 (A-A')
1. 喀斯特色土 総社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm 多量、総社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm 少量、黑色砂粉微量。しまり・粘性ややあります。
 2. 喀斯特色土 総社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm 中量、泥炭層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm 少量。しまりあり。粘性ややあります。
 3. 喀斯特色土 総社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 2.0$ cm 中量、泥炭層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm 少量。泥炭層ブロック $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm 少量。しまりあり。粘性ややあります。
 4. 喀斯特色土 総社砂層ブロック (白) $\phi 0.5 \sim 5.0$ cm 中量、総社砂層ブロック (黄) $\phi 0.5 \sim 1.0$ cm 少量。泥炭層微量。しまり・粘性ややあります。

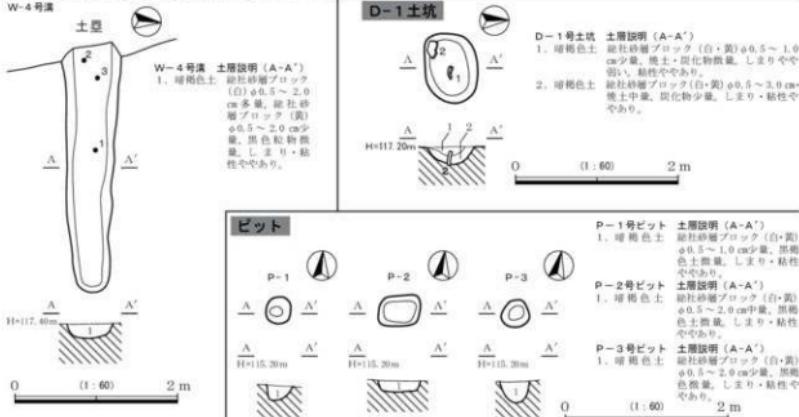


Fig. 15 遺構実測図 (9)

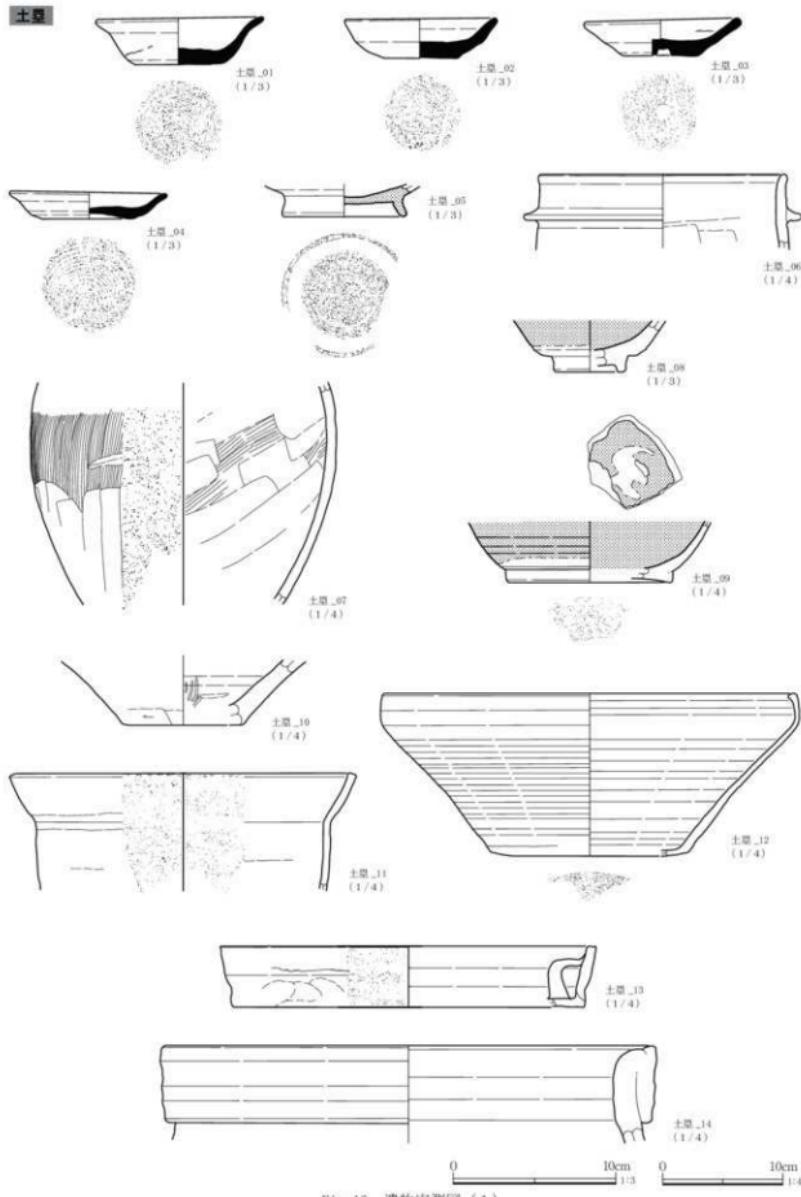
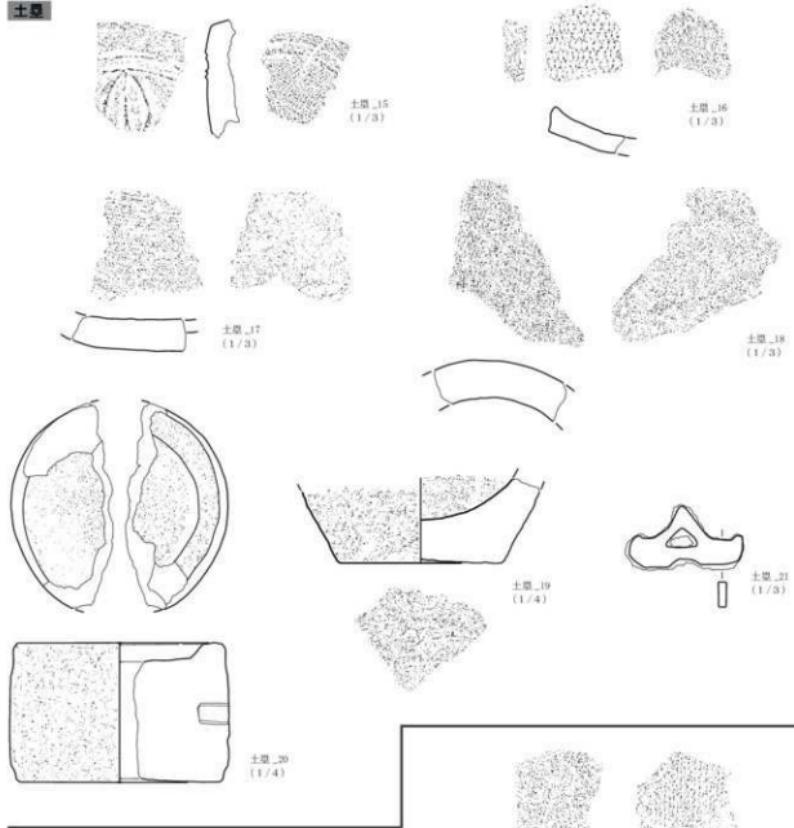


Fig. 16 遺物実測図 (1)

土器



W-1号溝



W-2号溝



0 10cm 0 10cm
1:3 1:4

Fig. 17 遺物実測図 (2)

W-3号溝

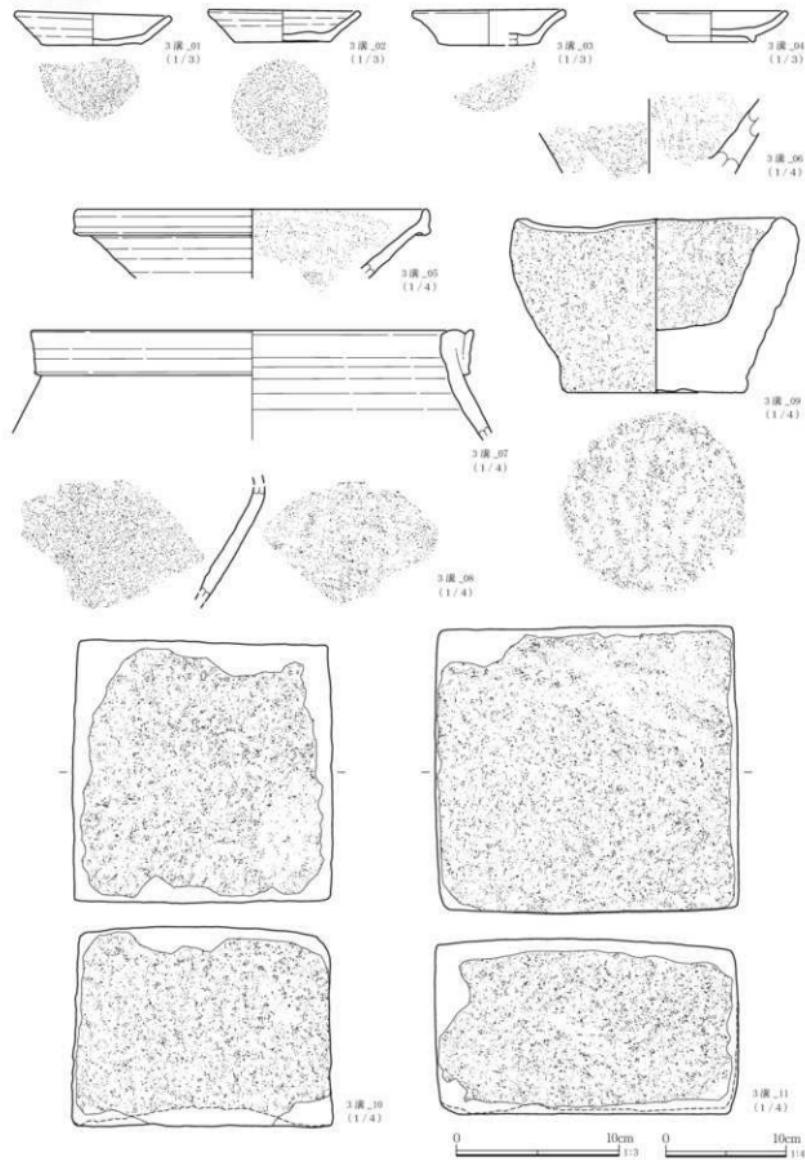
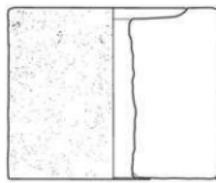
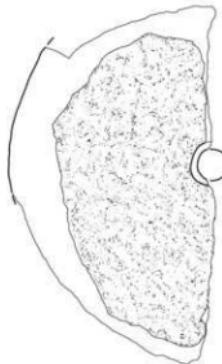
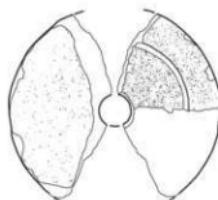
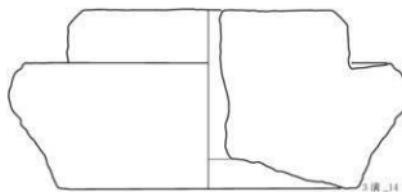
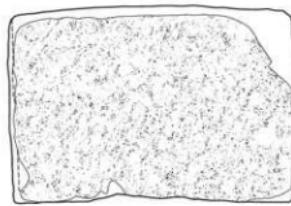
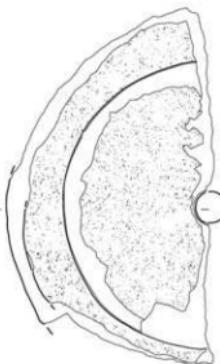
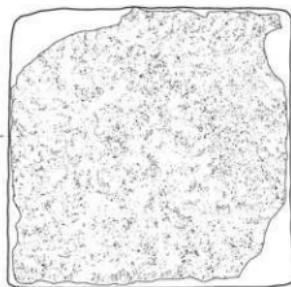


Fig. 18 遺物実測図 (3)

W-3号清

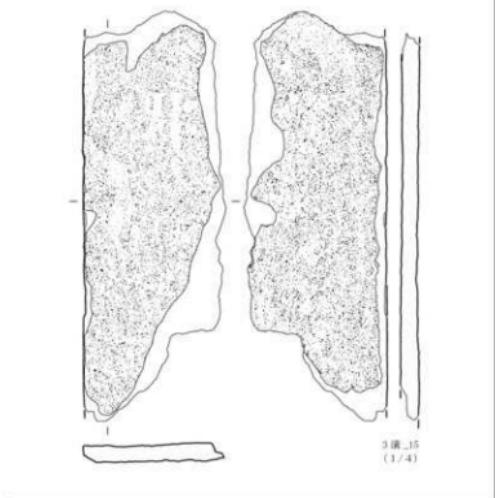


3-15
(1/3)

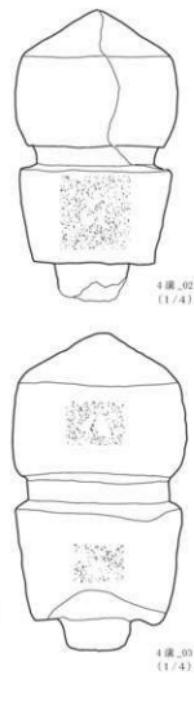


Fig. 19 遺物実測図 (4)

W-3号清



W-4号清



D-1号土坑

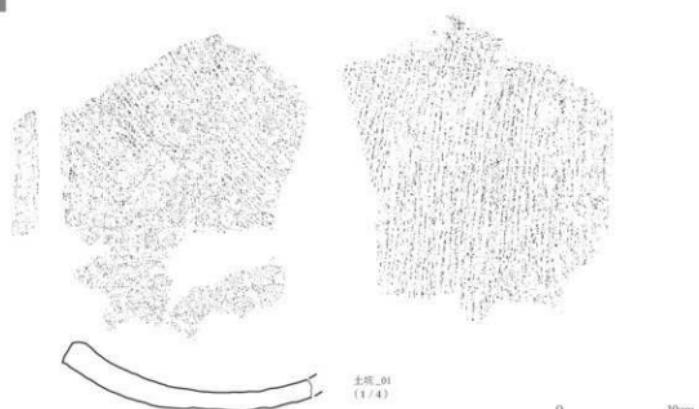


Fig. 20 遗物实测图 (5)

D-1号土坑

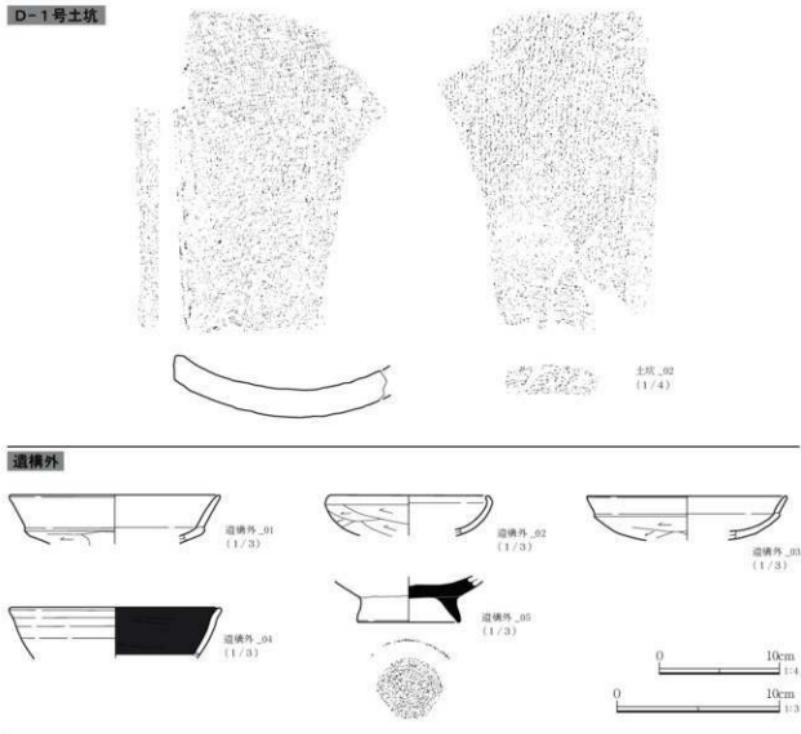


Fig. 21 遺物実測図 (6)

Tab. 2 出土遺物観察表 (1)

土壙

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 环	口径 10.3 底径 5.2 脚高 2.9	①焼成端 ②にぶい橙 ③白色粒・角閃石・片岩 ④ほぼ完形	外面：輪幅整形。底部右回転糸切り後無調整。 内面：輪幅整形。	2号トレンチ	
2	須恵器 环	口径 9.4 底径 4.7 脚高 2.5	①焼成端 ②にぶい橙 ③白色粒・角閃石・片岩 ④ほぼ完形	外面：輪幅整形。底部右回転糸切り後無調整。 内面：輪幅整形。	土壙南表面	
3	須恵器 环	口径 9.7 底径 4.7 脚高 2.3 ④3/4	①焼成端 ②浅黄 ③白色粒・角閃石 ④3/4	外面：輪幅整形。底部右回転糸切り後無調整。 内面：輪幅整形。	一括	外面底部穿孔カ
4	須恵器 环	口径 9.7 底径 5.5 脚高 1.7 ④ほぼ完形	①焼成端 ②浅黄橙 ③白色粒・角閃石・白色粒 ④ほぼ完形	外面：輪幅整形。底部右回転糸切り後無調整。 内面：輪幅整形。	2号トレンチ	
5	灰釉陶器 高台碗	口径 (7.7) 底径 (2.2)	①堅膜 ②灰白 ③白色粒 ④底部分	外面：輪幅整形。高台貼付後回転ナデ。 内面：輪幅整形。	南面	
6	羽釜	口径 (20.3) 脚高 (6.0)	①焼成端 ②橙 ③白色粒・角閃石・砂粒 ④口縁部破片	外面：輪幅整形。鈎貼付。 内面：輪幅整形後底ナデ。	3号トレンチ	
7	羽釜	器高 [18.1]	①焼成端 ②橙 ③白色粒・角閃石 ④脚部 1/8	外面：輪幅整形後。上半縦ハケ目、下位縦造ケズリ。 内面：輪幅整形後。斜径ハケ目→斜坡ナデ。	3号トレンチ	

Tab. 3 出土遺物観察表（2）

土器

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
8	陶器 天日茶碗	底径 [4.4] 器高 [3.1]	①良好 ②素一灰、釉一黑褐 ③白色粒 ④体部下位～底部 1/4	外面：輪軸整形。鉄輪施釉。高台部貼付。 内面：鉄輪施釉。	西面	瀬戸・美濃
9	陶器 鉢	底径 [13.3] 器高 [5.5]	①壊滅 ②素一灰白、釉一淡黄 ③白色粒 ④体部下位～底部 1/5	外面：輪軸整形。体部施釉。体部下位～底部無釉。底部鉄輪跡ケズリ。 内面：見込み痕あり。施釉。	南面	
10	軟質陶器 埴跡	底径 [9.9] 器高 [5.2]	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④胴部下位～底部片	外面：輪軸整形後胴部下端窓ケズリ。 内面：輪軸整形。	南面崩落土	
11	内耳鍋	口径 [28.4] 器高 [9.5]	①酸化焰燒成氣味 ②灰黃褐 ③黑色粒・白色粒 ④口縁部・胴部上位片	外面：輪軸整形。口縁部ヨコナダ。胴部窓ナダ。 内面：輪軸整形。口縁部ヨコナダ。胴部窓ナダ。	南面崩落土	
12	軟質陶器 鉢	口径 [34.3] 底径 [16.1] 器高 [13.3]	①良好 ②暗灰 ③白色粒・黒色粒	外面：輪軸整形。底部型造り。 内面：輪軸整形。	南面	
13	焙烙	口径 [30.9] 底径 [29.0] 器高 5.0	①良好 ②灰～黒 ③白色粒・角閃石 ④1/16	外面：口縁部ヨコナダ。体部上半輪軸ナダ。 下半指ナダ。 内面：口縁部ヨコナダ。体部施釉ナダ。	南面崩落土	
14	陶器 甕	口径 [40.6] 器高 [7.0]	①良好 ②に赤い赤 ③白色石 ④口縁部片	外面：輪軸整形。 内面：輪軸整形。	南面	
15	瓦 軒丸瓦	厚さ 1.7	①還元焰 ②灰 ③白色石 ④瓦当部 1/8	外面：単孔蓮華文。界線 2本。周縁無文。 内面：布目伝。	西面	
16	瓦 平瓦	厚さ 1.5	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・角閃石・石英 ④側部片	背面：網代根。 凸面：窓ナダ。	2面	
17	瓦 平瓦	厚さ 2.0	①酸化焰氣味 ②灰白 ③白色粒・黒色粒・石英 ④破片	背面：布目压痕。 凸面：窓ナダ後縁叩き。	南面	
18	瓦 丸瓦	厚さ 2.3	①還元焰 ②灰 ③白色石・白色粒・石英 ④破片	背面：布目压痕。 凸面：窓ナダ。	南面	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
19	石製品 石鋸	底径 [14.7] 器高 [7.2] 重量 855.85	①酸化焰 ②橙 ③砂粒・角閃石・白色粒 ④体部片	外面：単孔蓮華文。界線 2本。周縁無文。 内面：布目伝。	一括	
20	石製品 茶臼	直径 17.3 高さ 11.5 重量 1672.05。上臼。1/4。粗粒安山岩製。挽き手の差し込み口が一部残存。			南面	
21	鉄製品 火打金	残存長 7.3 幅 4.0 厚さ 0.5 重量 34.27。			南面	

W-1号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	埴輪 円筒埴輪	厚さ 1.4	①酸化焰 ②橙 ③砂粒・角閃石・白色粒 ④体部片	外面：網刷毛目。突沸端部横位ナダ。刷毛本数 2cm 11本。 内面：斜位刷毛目後部分的なナダ。刷毛本数 2cm 11本。	覆土一括	
2	瓦 平瓦	厚さ 1.8	①還元焰 ②灰白色 ③砂粒・石英・黒色粒 ④換端部片	背面：布目压痕後部分的な板位窓ナダ。窓部窓ナダ。 凸面：板位窓叩き後縁ナダ。 側面：窓ナダ。	覆土一括	

W-2号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	磁器 瓶	口径 [9.0] 器高 [4.6]	④1/8	外面：二重窓口目。 内面：透明釉。	覆土一括	肥前佐世見系。
2	陶器 埴跡	—	①普通 ②素一白、釉一暗赤褐 ③白色粒 ④胴部片	外面：輪軸整形。 内面：輪軸整形。埴 2.0 cm / 10 本以上。	覆土一括	瀬戸・美濃系

W-3号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土器 カワラケ	口径 [9.7] 底径 [5.9] 器高 2.1	①普通 ②明赤褐 ③黒色鉱物・赤褐色粒・石英・白色粒 ④1/2	外面：輪軸整形。底部左回転糸切り。 内面：輪軸整形。	3号トレンチ	
2	土器 カワラケ	口径 9.4 底径 6.6 器高 2.2	①普通 ②明赤褐 ③黒色鉱物・赤褐色粒・白色粒 ④3/4	外面：輪軸整形。底部右回転糸切り後無調整。 内面：輪軸整形。	3号トレンチ	
3	土器 カワラケ	口径 [9.5] 底径 [6.2] 器高 2.2	①普通 ②明赤褐 ③黒色鉱物・赤褐色粒・白色粒 ④3/4	外面：輪軸整形。底部右回転糸切り後無調整。 内面：輪軸整形。	3号トレンチ	
4	漆器 椀	口径 [9.5] 底径 [5.4] 器高 1.9	④1/4	外面：体部朱漆塗り。高台内黒漆塗り。 内面：体部朱漆塗り。	3号トレンチ	

Tab. 3 出土遺物觀察表 (3)

W-3号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
5	陶器 盤鉢	口径 (29.1) 器高 [5.6]	①普通 ②素白・釉・暗赤褐 ③白色粒 ④口縁部～脚部上位片	外面：輪轍整形。 内面：輪轍整形。擗目 2.0 cm / 12 本。	1号トレンチ	糸戸・美濃系
6	陶器 盤鉢	器高 [6.0]	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・赤褐色粒 ④脚部片	外面：横位の捺ケズリ。 内面：輪轍整形。擗目 2.5 cm / 4 本。	1号トレンチ	
7	燒結陶器 大甕	口径 (36.2) 器高 [9.0]	①普通 ②橙 ③透明粒・白色粒 ④口縁部～脚部片	外面：輪轍整形。施釉。 内面：輪轍整形。	3号トレンチ	
8	燒結陶器 大甕	—	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒・石英・粗砂粒 ④脚部片	外面：輪轍整形。 内面：輪轍整形。	3号トレンチ	
番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴	出土層位	備考		
9	石製品 石鉗	口径 (23.1) 底径 15.1 器高 14.3 重量 4650。粗粒安山岩製。内面摩擦痕。		1号トレンチ		
10	五輪塔 地輪	もしくは未製品か。長さ 16.4 幅 21.4 厚さ 21.4 重量 10360。角閃石安山岩製。波状痕あり。		3号トレンチ		
11	五輪塔 地輪	長さ 14.4 幅 24.9 厚さ 23.5 重量 14770。角閃石安山岩製。		4号トレンチ		
12	五輪塔 地輪	長さ 16.0 幅 23.5 厚さ 23.1 重量 12550。角閃石安山岩製。		3号トレンチ		
13	石製品 石臼	臼・上臼。直径 (17.2) 孔径 (2.6) 高さ 14.0 重量 1730.58。安山岩製。捲目は摩耗顯著。		2号トレンチ		
14	石製品 石臼	臼・下臼。直徑 (32.4) 孔径 (2.6) 高さ 14.7 重量 7500。安山岩製。		4号トレンチ		
15	石製品 石臼	残存長 33.6 残存幅 11.7 厚さ 1.5 重量 1100。碌記片岩製。種子の一部残存。		1号トレンチ		
16	石製品 硯石	長さ 6.3 幅 6.7 厚さ 5.9 重量 177.9。角閃石安山岩製。球状。自然石を素材とし。器面全体に摩耗痕が認められる。表面中央に漏斗状の凹みあり。		3号トレンチ		

W-4号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 火鉢	口径 (48.0) 器高 [5.3]	①普通 ②橙 ③黒色粒・白色粒 ④脚部片	外面：口縁部ナデ後“三つ巴”印文。横位隆起附付。ヨコナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部横位ナデ後指頭压痕。	No.1	
番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴	出土層位	備考		
2	五輪塔 空風輪	残存長 23.5 幅 12.7 厚さ 12.7 重量 2460。角閃石安山岩製。風輪に種子残存。		No.2		
3	五輪塔 空風輪	長さ 26.0 幅 14.3 厚さ 13.2 重量 2800。角閃石安山岩製。種子残存。		No.3		

D-1号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 2.2	①還元焰 ②灰色 ③白色粒・黒色粒 ④破片	背面：布目庄痕後ナデ。端部ナデ。 凸面：構造記痕後ナデ。 側面：造ツテ。	2面	
2	瓦 平瓦	厚さ 2.3	①還元焰 ②灰色 ③白色粒・石英 ④快端部左側片	背面：布目庄痕後ナデ。快端側ナデ。 凸面：繩印記痕後ナデ。 側面：造ナデ。	2面	

遺構外出土遺物

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 壺	口径 (13.0) 器高 [3.0]	①酸化焰 ②橙 ③白色粒 ④口縁部～体部上半 1/6	外面：口縁部ヨコナデ。体部捺ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	土壙南法面 崩落土	
2	土師器 壺	口径 (9.8) 器高 [2.5]	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色物・片岩 ④口縁部～体部 1/3	外面：口縁部ヨコナデ。体部捺ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	土壙 3号トレンチ、土壙盛土	
3	土師器 壺	口径 (12.3) 器高 [2.7]	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～体部上半 1/6	外面：口縁部ヨコナデ。体部捺ケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	土壙 3号トレンチ	
4	土師器 壺	口径 (13.1) 器高 [3.2]	①還元焰 ②灰 ③黑色粒・透明白・白色粒 ④口縁部～体部上半 1/10	外面：輪轍整形。 内面：輪轍整形。黒色處理。	W-2号溝 一橋	
5	須恵器 高台付碗	底径 6.4 器高 (2.8)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・石英・黒色物 ④破片	外面：輪轍整形後、体部下端館ケズリ。高台部貼付後回転ナデ。 内面：輪轍整形。	W-3号溝 3号トレンチ 子	

VI 元総社蒼海遺跡群（124）出土の人骨および獸骨

大妻女子大学博物館 植崎修一郎

1. W-3号溝出土の人の骨

元総社蒼海遺跡群（124）は、群馬県前橋市元総社町に所在する。毛野考古学研究所による発掘調査が、2017年1月～同年3月にかけて実施された。本遺跡のW-3号溝より人骨が出土したので、以下に報告する。

残念ながら、溝から出土しているため、人骨の詳細な出土状況は不明である。人骨の出土部位は、頭蓋骨の前頭骨である。色は、茶色を呈しており、長い間水に浸かっていたことを示す。骨の厚さは比較的厚く、男性的であるが、左右の前頭結節が発達しているため、性別は女性であると推定される。大柄な女性であった可能性が高い。冠状縫合部はまだ癒合していないため、死亡年齢は約30歳代であることが推定される。



写真1. 元総社蒼海遺跡(124)・W-3号溝出土前頭骨

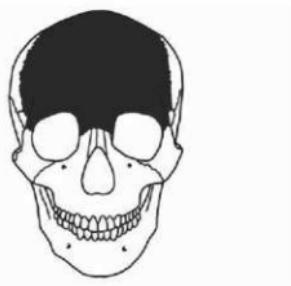


図1. 出土部位図（頭蓋骨前面図）

2. W-3号溝出土の獸骨

元総社蒼海遺跡群（124）は、群馬県前橋市元総社町に所在する。毛野考古学研究所による発掘調査が、2017年1月～同年3月にかけて実施された。本遺跡のW-3号溝より獸骨が出土したので、以下に報告する。

残念ながら、溝から出土しているため、獸骨の詳細な出土状況は不明である。出土した状態は、多くの破片になっていたが、接合した。

接合の結果、ウマ（馬）の下顎右臼歯であることが判明した。破損しているため、歯種の同定まではいたらなかった。ウマの場合、犬歯の有無で性別が推定できるが今回も不可能である。ある程度咬耗しているため、老齢であると推定される。



写真2. 元総社蒼海遺跡(124)・W-3号溝出土馬歯

VII まとめ

本調査では蒼海城「本丸」とされる郭の西側にあたる土壘および堀跡(W-3号溝)が確認された。蒼海城は「上毛伝説雑記拾遺」の「総社記」に、「長元元戌辰年(1028年)六月、上総介平忠常下總國より引移らる。其の嫡子下総介常重、其の長子千葉介常胤、此の時城領護の為に、五智の如来を城の四方に數箇所を建立有って安置す。」と記されている。その後、永享元年(1429年)惣社長尾氏により古代・上野国府の地割を利用して築城(改修)された県内最古級に位置付けられる中世城郭である。染谷川と牛池川に挟まれた、およそ東西1.0km、南北1.2kmとされる範囲を縄張りとし、地形に制約された複雑な縱横連郭構造である。1999年(平成11年)から継続して進められている区画整理事業や民間開発等に伴う発掘調査事例の増加により、蒼海城関連の縄張りや関連遺構も明らかになりつつある。ここでは、蒼海(124)の調査成果について総社歴史資料館蔵「蒼海城絵図」および山崎一氏作成の蒼海城縄張図と照合し、概観したいと思う。

1. 土壘

本調査区では「本丸」の西側から南西のコーナー部分にあたる範囲が検出された。「本丸」南側には「二の丸」が配され、土壘南西隅には櫓台があったとされるが、調査範囲内からその痕跡は確認されなかった。土壘は表土～近世以降の堆積土下から現存する裾、天端が検出された。3本のトレーナーを設定して覓ち割りを行ったが、上層部分の2～3層程が土壘構築土と考えられ、掲き固めたというほどの綿りはみられない。構築層は削り残した地盤である総社砂層ではなく、その上に堆積するA s-BおよびA s-Cが混入する黒褐色土の整地層上に盛土をして構築されていた。なお、この黒褐色土層には部分的に平安時代の土器片や焼土・炭化物が含まれるため、平安時代～中世の生活面であったと考えられる。土壘の構築土には暗褐色土に総社砂層・砂層・粘性のある黒褐色土ブロックが多量に混ざられており、その含有量は外法面側面顯著である。単純に堀を構築する際、総社砂層を削り込んだものとも考えられるが、これは土を混ぜることによって締固め効果や強度増加を狙い、崩落を防いだのではないかと推測される。盛土は調査区北端で土壘法面にやや傾斜する様相も見られるが、基本的には水平堆積層を成す。なお、現存する盛土高が20数cm程度であることや、最終段階の堀が土壘側から人為的に埋め戻されていることから、土壘は廢城以降、人為的に削られて堀が埋戻されて整地された可能性が考えられる。そして狭小な範囲ではあるが、盛土を掘り込む溝状の耕作溝が確認されたことから、近世以降は畠地として利用されていたようである。

2. 堀

W-3号溝は土壘に並行する「本丸」西側の堀跡と考えられる。4本のトレーナー設定をして調査にあたったが、土層断面の観察から、堀の変遷はおよそ4時に細分される。大きくは2時期(古段階:D期、新段階:A～C期)に分けられる。まず、古段階にあたるD期だが、調査地内から外側にあたる西壁の立ち上がりは確認できなかった。おそらくは箱堀を呈し、西側の立ち上がりは現道下にまでおよび、その上端幅は10mを超えるものと予想される。底面は北から南へ約10cm傾斜する。土壘に並行して走向し、本丸を周回する。南側は二の丸方へ走行し、蒼海(25・26)のW-1号溝に接続。あるいは土壘に並行して東方へクランクをし、蒼海(36)のW-1号溝に接続するものと考えられる。埋没土は平行堆積をし、下層ではグライ化した粘土層・砂層が厚く堆積が確認されることから、長時間湛水していたようである。沼地であったとされる脆弱な北西部の影響であろうか。現在においても一定の雨量を超えると北西側からの流水し、冠水するという。D期の構築時期を示す資料は乏しいが、永享元年(1429年)に惣社長尾景行が上野国府の地割を利用して築城もしくは修築した時期の堀跡である可能性が考えられようか。次に新段階にあたるA～C期だが、上端幅はD期と比べ約半減となり、断面形状はV字状の箱堀となる。B・C期の深度は前段階とほぼ変わらないが、最新段階にあたるA期では深度をも約半減となる。C期では調査の制限上、南端を捉えることはできなかったものの、前段階にあたるD期に続き土壘に並行して走行することが

確認されたが、A期ないしはB期以降になると「本丸」南西付近で西方へクランクすることが4号トレンチから確認された。これは絵図と照合すると、「松井屋敷」とされる郭の北堀にあたり、この時期に同廓が構築された可能性が考えられる。埋没土の堆積状況だが、B・C期の堀底ではややグライ化した砂層・粘土層がみられるがD期ほどではない。A～C期になると堀の改修に伴う掘り返し及び土塁側からの人為的な埋戻しが行われているが、A期ではおそらく土塁を切り崩したと推測される覆土が土塁側から極めて短期間に埋め戻されている様子が窺え、その後に堀およびその周辺は人為的な埋め戻しによって整地されていることが看取される。構築時期についてはトレンチ調査という調査範囲の制限等により特定することは難しいが、一括遺物が15世紀後半あるいは15世紀後半以降を主体とすることや、周辺における既知調査地の調査成果から、C期は15世紀半ば以降、B期は15世紀後半以降に比定され、A期は16世紀以降という事が一案としてあげられようか。

堀はB期以降、断面形態の変化や短期間に掘り返しが行われ、曲輪の分割などにも変化が生じたものと考えられる。その背景には1454年(享徳3年)に、関東を二分して争われた享徳の乱や、1476年(文明8年)に勃発した長尾景春の乱、下って箕輪城主長野氏による挾撃や永禄9年(1566年)武田氏による攻略など、しだいに動乱の時代に飲み込まれ、様々な局面に対応して本丸周辺が変更された様子を窺うことができた。

今回、W-3号溝から得られた調査成果により、本稿では「本丸」周辺における堀の変遷想定図を一案として提示したが、蒼海(24・27)ではD期と同一遺構と想定される堀より1段階古い堀(埋没土中から14世紀～15世紀前半の遺物も出土している)が存在する点も踏まえ、今後増加するであろう発掘調査の成果により検討を重ね、さらに縄張り図及び変遷想定図が検証されることを期待する。

【引用・参考文献】

- 山崎一 1987 「群馬県古城跡の研究 上巻」 群馬県文化事業振興会
 群馬県教育委員会 1988 「群馬県の中世城館」
 山田誠司 2010 「元総社蒼海道跡群(29)」 前橋市理蔵文化財発掘調査団
 萩野博巳 2011 「元総社蒼海道跡群(36)」 前橋市教育委員会
 山田誠司 2013 「元総社蒼海道跡群(44・45)」 前橋市教育委員会
 相澤正洋 2013 「元総社蒼海道跡群(47)」 前橋市教育委員会
 山田誠司 2014 「元総社蒼海道跡群(57)(58)(29)」 前橋市教育委員会
 中村岳彦 2016 「元総社蒼海道跡群(65)」 前橋市教育委員会
 飯森康弘 2016 「群馬の城 30選 戦国への誘い」 上毛新聞社
 原 風 2000 「中世城跡跡に見る版築土壁」『研究紀要 18』 財团法人 群馬県理蔵文化財調査事業団



Fig.22 本調査地と周辺蒼海城縄張想定図(日沖 2010 を加筆修正)

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミセキダン 124
書名	元總社蒼海遺跡群（124）
刷書名	前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	
編著者名	小峰篤・山本千春
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒 371-0018 群馬県前橋市總社町 3-11-4 Tel 027-251-6511
発行年月日	西暦 2017 年 12 月 22 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	(日本測地系)				
元總社蒼海 遺跡群（124）	群馬県前橋市元總 社町 1903 番 1 号 ほか	10201	28 A 229	36° 23'	139° 02'	20170130 ~	1,075	前橋都市計画事 業元總社蒼海土 地区画整理事業
				24"	01"	20170330		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元總社蒼海遺跡 群（124）	城館跡 その他	平安 中・近世	溝（堀含む） 土坑 ピット	4条 1基 3基	土器 瓦 石製品 木製品 金属製品 骨

写 真 図 版





遺跡全景（上赤東）



遺跡全景（上赤東）



土里 1号トレンチ土層断面（南東から）



土里 1号トレンチ土層断面（南西から）



土里 2号トレンチ土層断面（南西から）



土里 3号トレンチ土層断面（南西から）



土里 2面全景（上が東）



W-3号溝1号トレンチ土層断面（南西から）



W-3号溝1号トレンチ土層断面（南東から）



W-3号溝B・C期1号トレンチ堀底（南から）



W-3号溝2号トレンチ土層断面（南東から）



W-3号溝3号トレンチ土層断面（北東から）



W-3号溝3号トレンチ土層断面西半側（北から）



W-3号溝3号トレンチ人骨・かわらけ出土状態（南西から）



W-3号溝3号トレンチ遺物出土状態（南西から）



W-3号溝南側上端部走行状態 (北から)



W-3号溝4号トレンチ (西から)



W-3号溝4号トレンチD土層断面 (南から)



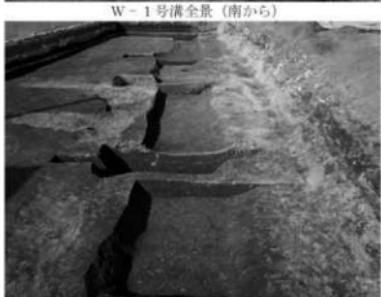
W-3号溝4号トレンチE土層断面 (南東から)



W-1号溝全景 (南から)



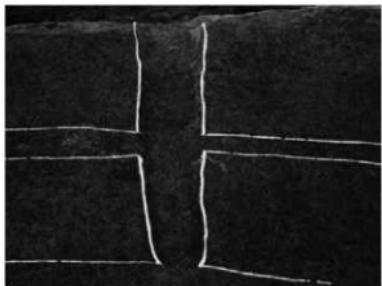
W-1号溝調査区東壁トレンチ土層断面 (北西から)



W-2号溝全景 (南から)



W-2号溝全景 (北西から)



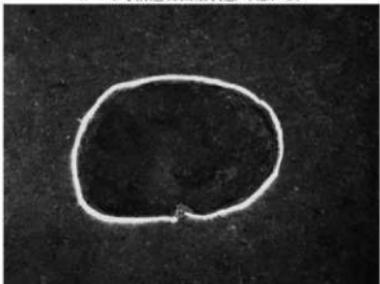
W-4号溝全景 (東から)



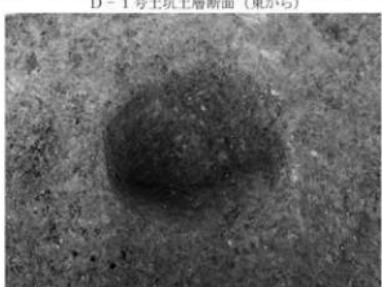
W-4号溝遺物出土状態 (北から)



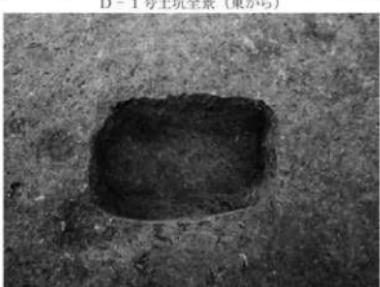
D-1号土坑土層断面 (東から)



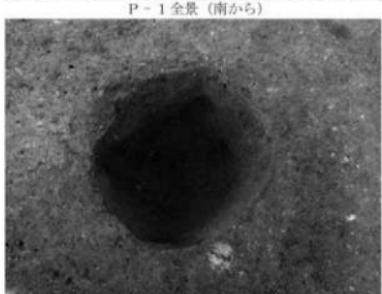
D-1号土坑全景 (東から)



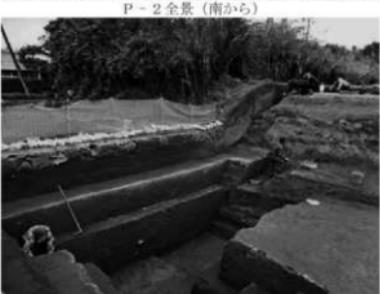
P-1全景 (南から)



P-2全景 (南から)

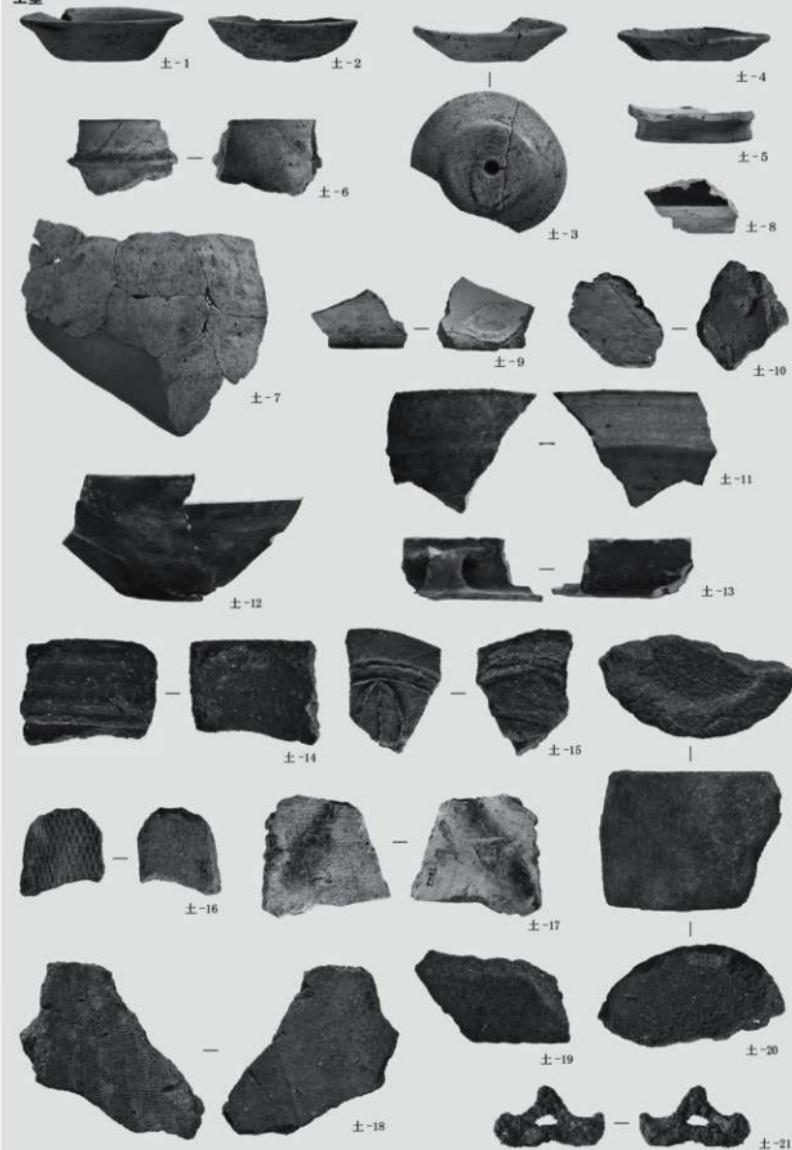


P-3全景 (南から)



調査風景

土器



出土遺物 (1)

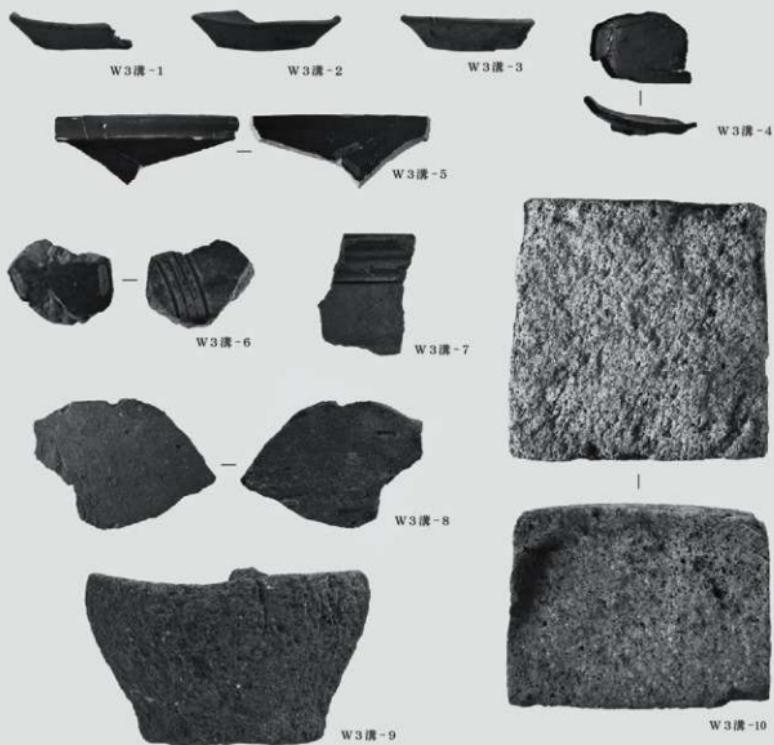
W-1号溝



W-2号溝



W-3号溝（1）



出土遺物（2）

W-3号溝 (2)



W3溝-13

W3溝-11

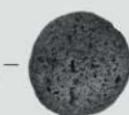
W3溝-12



W3溝-14



W3溝-15



W3溝-16

出土遺物 (3)

W-4号溝



D-1号土坑



遺構外



出土遺物 (4)

元総社蒼海遺跡群（124）

前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 29 年 12 月 15 日印刷

平成 29 年 12 月 22 日発行

編 集／有限会社毛野考古学研究所

発 行／前橋市教育委員会

前橋市総社町 3-11-4

Tel 027-251-6511

印 刷／朝日印刷工業株式会社
